

第6回ようざん事例発表会

「事業所自慢」



平成26年11月17日

第6回ようざん事例発表会 その3

ケアサポートセンターようざん飯塚の自慢は『畑』

ケアサポートセンターようざん飯塚 伊藤 祐毅 p.2

NO SMILE NO LIFE 楽しくなければ DAI2 ぢゃないっつ！！！！(-)-☆

スーパーデイようざん飯塚第2 山田知世 p.5

～寄り添える時間～

デイサービスプランドールようざん 神田良江 p.7

「拒否なんてなんのその！」

スーパーデイようざん 赤尾 真由美 p.10

おやつの味わい方「ようざん風」

ケアサポートセンターようざん 塚越 涼介 p.13

ひとりひとりが主役になれる事業所

スーパーデイようざん貝沢 岡田 秀朗 p.15

暖かみと笑顔が溢れる事業所を目指して

スーパーデイようざん倉賀野 高橋 佐知 p.18

PREMIUM～心満足足～

ショートステイようざん 山口恵美 p.22

言葉を取り戻す日を願って

グループホームようざん倉賀野 佐野史人 p.25

「エンタティナーな仲間たち」

ケアサポートセンターようざん貝沢 小林 秀子 p.29

ケアサポートセンターようざん飯塚の自慢は『畑』

ケアサポートようざん飯塚

発表者:伊藤 祐毅

I. はじめに

ケアサポートセンターようざん飯塚よりご紹介させて頂く自慢は『畑』です。畑での野菜作りを中心としたレクリエーションに取り組んでいます。敷地内の緑地スペースの一角を利用し活用しています。今年の5月に、今までの倍のスペースに畑を拡張し、今まで以上に様々な種類の野菜を植えて、レクリエーションへの取り組みを強くしてきました。

その一部を事例発表の一つとして報告させていただきます。

II. 結果

1) 初めに

夏から秋にかけての野菜収穫を視野に入れ、5月上旬より、キュウリ、ナス、枝豆、トウモロコシ等の種と苗を植えました。毎日の作業には利用者様を時間の許す限りお連れして一緒に水やり、草むしり等、気温の高くない時間を見計らっては、レクリエーションの一つの活動として手伝って頂きました。

2) 事例紹介

[氏名]T様

[年齢]91歳

[介護度]要介護度3

[既往歴] 平成26年4月、自宅にて転倒、左大腿部大転子骨折で入院。入院中、帰宅願望強く、看護師を殴ったり、リハビリを拒否する等があり、ご家族は入院が長引くと認知症が悪化してしまうのでは？と心配され、小規模利用となった。

[氏名]Y様

[年齢]75歳

[介護度]要介護度5

[既往歴] 脊柱管狭窄症、多系統委縮症の為、左上下肢の麻痺、拘縮あり。右側は健常であり、車イス自力操作、立位保持いずれも行えるが、やや不安定。社交的、外出好きであったが車イスの生活になってからは、様々な面で意欲が低下してきている。昔は温和で世話好きだったということだが、現在は短気になってしまったとご家族より。

3) アセスメント

1. T様

帰宅願望強く、また介助やリハビリに対する拒否等もご自宅から病院、小規模へと環境が変化していったことで漠然とした不安を感じ始めたと考えられます。

また、ご自宅ではご家族が常に傍にいたということがあり、安心感を与える人がいないという事も帰宅願望が強い要因であると推察できます。

2. Y様

自身の身体の状態はY様にとって大きな喪失であったと考えられます。その為、様々な面での意欲の低下に繋がっていったと推察出来ます。

元々、社交的、外出好きであったということと、世話好きだったという性格からレクリエーション等の活動を通して QOL 向上を目指して行きたいです。

4) 実施の結果

1. T様

畑での野菜の成長を直に見たり、触れたり、また、出来た野菜を食べながら他の利用者様や職員と交流していきました。

少しずつですが、表情が明るくなり、笑顔が多くなってきました。

日中、帰宅願望の訴え、また、介助に対する拒否、暴言、暴力等も減少してきました。

2. Y様

元々、畑仕事の経験が過去にあったと、Y様自身から笑顔でお話があり、Y様から「今日は、畑は行くかい？」や「畑行かないかい？」と職員へ話しかけられてきました。その際の表情は明るく、また、野菜に対する自身の経験からくるアドバイスを話される時は、真剣で、なんとか自分の出来る作業はしてみようという意欲が見られました。

3. ケアサポートセンターようざん飯塚全体

日々、成長していく野菜を眺める利用者様は「大きくなってきたね。」と話しをし、他の利用者様との交流もよく見られ、どの方も笑顔が多く見られました。

Ⅲ. 考察

1) 園芸療法

園芸療法とは、植物あるいは植物に関連する様々な活動を通して、心や体に良い影響をもたらす療法です。障害を持った方や、心や体を病んだ方などのリハビリテーションとして、ま

た、セラピーとしての役割を持っています。

芽が出た、実がなった等の達成の喜びは、意欲増進へと繋がっていきます。畑を見に行く、収穫をするなどの作業は、機能訓練の役割を担い、活動の中で身体機能の維持、保進が計れます。そして、畑で採れた野菜を使って利用者様と一緒に料理をするなど、レクリエーション活動の幅が広がっていきます。

また、園芸療法ですが、認知症の方に良い影響を与えるのに効果的であると言われています。認知症の方が花や、野菜、土と触れ合うことにより、視覚、嗅覚、触覚、味覚に通じ、さらに情動が脳全体の活性化へと繋がります。視覚を刺激すると後頭葉が、全体のバランスをつかむ時は頭頂葉が、記憶をたどる時は側頭葉が働きます。

また、アルツハイマー型認知症の方は、主に頭頂葉の調子が悪くなり、頭頂葉の委縮が進むと失見当が進みますが、園芸療法は見当識を補正しやすいと言われています。

2) ケアサポートセンターようざん飯塚では

全体的な結果から判断し、多くの利用者様が表情が明るくなり笑顔が多くなったと考えられます。また、野菜を通して利用者様と寄り添い、何かをするという職員の態度が利用者様の良い変化を促していったものと考えます。

『畑』を取り入れることで、QOL 向上に繋がる有効なレクリエーションであったといえます。

IV. まとめ

ケアサポートセンターようざん飯塚では、利用者様全体の約 4 割の方が、アルツハイマー型認知症です。『畑』というのは、今現在のケアサポートセンターようざん飯塚にとって、とても合っている自慢だと言えます。

また、この『畑』を通して他の事業所の方達と交流していけたら、おもしろいのではないかと思います。

畑作業をしていくと、複数の利用者様より「こら辺は、ずっと向こうまで畑や田んぼだったんだよ。」とお話を伺いました。そして、利用者様同士で畑を眺めながら、昔の思い出話をされていました。そんな穏やかな時間が流れていたことがとても印象に残っています。ケアサポートセンターようざん飯塚の自慢です。

NO SMILE NO LIFE

楽しくなければ DAI2 ぢゃないっつ！！！！(^_-)-☆

スーパーデイようざん飯塚第2

発表者:山田知世

<はじめに>

スーパーデイようざん飯塚第2がオープンして三年目に突入しました。そんなスーパーデイようざん飯塚第2では美人1名、他7名のスタッフで毎日ケアに勤しんでおります。

今回は美人の山田が代表してスーパーデイようざん飯塚第2の良いところを紹介していきます。

<良いところ紹介>

今回、事業所自慢ということで、スーパーデイようざん飯塚第2の良いところはどこだろうと考えてみました。そう思った時にスーパーデイようざん飯塚第2の良いところを一番知っているのは利用者様だと思いました。そこでインタビューをしました。

・良いところ①

それではひとつめのインタビューをご覧ください。

動画の会話

スタッフ:スーパーデイようざん飯塚第2の良いところはどこですか？

利用者:明るく楽しく元気がいいところです。近所のお友達とお話しているかのように楽しいところです。

このインタビューでも言われていたように、皆様いつも明るく楽しく元気よく過ごされていらっしゃいます。ここは飯塚周辺の利用者様が多く、皆様利用前からの顔なじみで地元話で盛り上がっています。そのため自然と町の集会所に集まっているかのような雰囲気になるのです。

もちろんご近所さんではない方もこの雰囲気に包まれていくのです。皆様お茶を飲みながら話をする時間を楽しみにしていらっしゃるようです。

・良いところ②

次のインタビューをご覧ください。

動画の会話

スタッフ:それでは次の方にも聞いてみたいと思います。スーパーデイようざん飯塚第2の良いところはどこですか？

利用者:イベントがいっぱいで楽しいのよね。そういえばこの間、芸能人がきたのよね。

スーパーデイようざん飯塚第2の2つ目の良いところはイベントが沢山あることです。先日の祭りイベントでは、今話題のお笑い芸人(スタッフ仮装)が来て大いに盛り上がりました。他にも梨狩りやバーベキュー、ドライブ、おやつ作りなど充実したレクリエーションを行っています。レクリエーションの多さもさることながら、利用者様皆ノリが良く明るい方ばかりなのです。そのおかげで毎回イベントは大笑いの大成功！！！！帰りの車内でも「今日は楽しかったんね～」と互いに言い合い、笑いに溢れています。

・良いところ③

最後のインタビューをご覧ください。

動画の会話

スタッフ①:こちらのスタッフにも聞いてみましょう。スーパーデイようざん飯塚第2の良いところはどこですか？

スタッフ②:皆さん働き者で毎日本当に助かっているんですよ。

スタッフ①:それではそのVTRがあるのでどうぞ。

～家事援助風景の映像～

大半の利用者様がこのような家事援助を行う事が出来ます。女性の利用者様はもちろん、男性の利用者様も一緒にされています。しかも皆様、率先して行って下さっていて仕事を取り合いになることもしばしばです。

<おわりに>

まだまだ紹介しきれないのですが、スーパーデイようざん飯塚第2では利用者、スタッフ問わず楽しい毎日を送っております。最後に、そんな日常をご覧ください。

～寄り添える時間～

デイサービスブランドールようざん

発表者:神田良江

はじめに、

デイサービスブランドールようざんの紹介をしたいと思います。定員10名の職員5名の小規模デイサービスです。

- ・田中所長:ピュアな笑顔で利用者の方からモテモテです。
- ・藤田さん:いつもニコニコで、利用者様に寄り添っています。
- ・神田さん:デイのお母さんの存在です。とても頼りになります。
- ・脇田さん:礼儀正しく、とても優しく利用者様から人気者です。
- ・田子さん:まだ若いデイサービスの率先力です。未熟なのでたくさん勉強します。

個々に対応しゆっくり過ごせるというのが特徴で、ご利用になる利用者様はブランドールの方がほとんどですが外部からは数名の方にご利用いただいています。時には飯塚周辺をドライブ、おやつレクなどを行い、利用者様がゆっくり過ごせる空間づくりに取り組んでいます。ここで、今日は三名様の事例について発表したいと思います。

(事例1)

名前	〇様
年齢	76歳
性別	女性
要介護度	1
既往歴	糖尿病 高脂血症 うつ病
趣味	ドライブ

〇様は最初、スーパーデイへ通所されていました。

11月頃、スーパーデイ→当デイサービスをお試しでご利用。ご利用当初、ネガティブ思考でした。ご利用が決まり、〇様から「つまらない」等の声も聞かれ、次第に時間を気にするようになってきてまい、時計を見ては「時間だ、帰るよ。」と時間にまで神経質に。食事でも、「私のまだ？早く出してよ。」と言われ、食事を提供して忙しく10分程で食べ終わってしまう感じでした。外出しても、「つま

らない。「もう帰ろう。」と言うように。私達職員は話し合いO様にどのようにしたら楽しんでもらえるのかを考えました。時間を気にしてしまうO様に対して、おやつレクのお手伝い、季節の製作、洗濯物を干す畳むなど簡単な作業をして帰宅時間を迎えてもらおうという対応を始めました。

始めた当初、「えーなんで私がしなきゃいけないの？」「めんどうだよ。」という声がたくさん聞かれました。O様は「私めんどくさがりなんだよ。」と言うようになっていました。

日に日に変化が出てきて・・・仲の良い利用者様が出来たことで、精神的に落ち着いてきて、時間などを気にされることもなくなりました。

「私のご飯運んでくれるの最後でいいよ。」「私も手伝うよ。」など進んでしてくれるようになりました。外出まで一緒に出来るようになり外出しても「楽しかった！また来たい。」という声が聴けるようになりました。

(事例2)

名前	N様
年齢	80歳
性別	男性
要介護度	2
既往歴	脳梗塞 脳血管性認知症 十二指腸潰瘍
趣味	お酒落

N様は当デイサービスに入るなり落ち着きが無く、扉を引っ張ったり、徘徊をしたりという状態でした。当初は、入浴にもひどく拒否があり。「今日はいいいよ。いいです。」

とホールへと戻ってしまうような状況でした。入浴の度に、脱衣所を見てもらうのさえ拒まれていました。ある時をきっかけに、脱衣所に入り、衣類を脱ぎ始め「いいの、ここに入って。」と職員に尋ね、「良いですよ。」とお答えすると、笑顔で入浴をされるようになりました。その後、拒否なく入浴されるようになり、デイに来所されると脱衣所に向われます。

デイサービスでのご様子は、扉の付近に人影が見えると、「開いてる？」と言いドアの近くに行きドアを「ガタガタ」させてみたり、無理やり開けようとする姿が見られます。職員がNさん、ホール行きませんか？と声を掛けるがドアの側を離れようとはしませんでした。何度も何度もドアを開けようと必死になっていました。「ダメ？出られないの？」「これは、ダメだ。」と表情は陰しく誘導困難でした。職員がN様に対しての決めた対応は・・・

近くに寄り添い話を傾聴し、時には気分転換に外に散歩に行く。N様はじゃんけんが好きなのでじゃんけんをするなどの対応をしました。

現在、デイの中での徘徊が少なくなり、笑顔が増え、歌を唄ったり、職員と会話をするとうれやうになるようになり、N様のできる事が増えてきました。時間が経ち帰宅時間までドアの近くに行きガタガタする事も無くなって今では帰りの際、「も一帰るん？」となごり惜しい表情が見られます。

(事例3)

名前	Y様
年齢	88歳
性別	女性
要介護度	1
既往歴	アルツハイマー型認知症 胃炎 腰痛
趣味	お花のお世話 裁縫

Y様は以前ご主人と二人で生活をされていました。デイサービスの利用が決まりご自宅に迎えあがるも、職員を警戒してしまい、「家の事やらなきゃ。」「掃除が終わってないから」「今忙しいんだよ。」と忙しい様子が多く見られていました。今日は行けない、あんた(ご主人)だけ行きなよ。と突き放す言い方をされ、ご夫婦で利用・入浴されることは困難な状況でした。利用されても、「家のことが心配なんだよ。」「人が多いのは苦手」と話され落ち着きが無く、ドア付近に行き、「開けて」「出して欲しいんだけど。」「お風呂は毎日入ってるから」と言われることもあり。自宅に戻られる事が多かったです。ご主人が亡くなり精神的に不安定になり、生活面の心配がある為、ブランドールへ入居になる。その後もデイサービスを利用され、以前拒否されていた入浴もスムーズにされるようになり、周りの利用者様と楽しく過ごされるようになり、食器洗い、花の水やり、洗濯干し、たたみを積極的に手伝って下さるようになり、以前では出来なかった外出や散歩も楽しく笑顔で出来るようになりました。「私、こんなに前は活発じゃなかったのに、楽しくて！」と話されるようになりました。

終わりに

今回の三名様の事例を通して、三名様が以前どの様に生活をされていたのか私達職員も三名様の事をより多く、親身になって知ることが出来ました。外出が出来るようになってよかった。と言う声が聴けるようになり、帰るのさえ名残惜しくなってしまうたり、以前とは違う自分になったと。たくさんの変化に築くことが出来、利用者様自身にも協力頂き、三名様の事例を発表して良かったと思っています。10月で一年を迎えたデイサービスブランドールようざんですが、5名の職員でもっと、利用者様が楽しんでもらえるような明るいデイサービスにしていきたいと思ひます。

周りの方たちと連携を取り合い、助け合いながらデイサービスを盛り上げていきたいと思ひます。

「拒否なんてなんのその！」

スーパーデイようざん

発表者: 赤尾 真由美

はじめに

私達の勤めるスーパーデイようざんは、平成19年4月1日にオープンしました。ようざんで最初の認知症対応型通所介護事業所です。施設の回りは、車通りが少なく散歩ではゆっくりと田畑の作物や花々、遠くには浅間山を見ながら季節感を味わう事が出来ます。室内ホールからも白衣観音、信越線の電車、利用者様と一緒に作っている畑が見えてせまいホールでも圧迫感はなくゆったりとくつろげる空間となっています。

そんなスーパーデイようざんに私が2年前に入社した時、職員のチームワークの良さと利用者様に対する誠実さを目の当たりにし自分の家族にもここなら安心して任せられると思いました。現在では、私もスーパーデイようざんの一員として多くの利用者様に対して誠実な対応を心掛けています。

さて、本題の”事業所の自慢”についてですが、事前に職員に聞き取りを行った所、色々自慢したいところが挙がりました。今回紹介する事業所自慢は題して『～職員は演技派女優～』です！スーパーデイようざんでは演技派な職員が毎日活躍しています。連れ出し困難、入浴拒否、帰宅願望があるなどといった個性のある利用者様に対し、ある時は市の職員、ある時は看護師、ある時は女医、ある時は利用者様のご家族になり変わり演技を行います。

演技を行うことにより、利用者様のプライドを傷つけずに、ご家族の希望やご本人様の本当の気持ちを引き出して適切なケアを行います。利用者様が本音で「ありがとう」と言い良い表情で過ごして頂いている様子を見るととても充実した気持ちになり、仕事に対するモチベーションになっています。

そんな、ケアを行う毎日の中から特に印象深いエピソードを2つ紹介したいと思います。一つ目は、ヒザの状態を理由に、入浴を拒否されるA様のケース。二つ目に、デイサービスにいる事に不安を覚え、帰宅を訴え食事を拒否されるB様のケースです。一つ目の、ヒザの状態を理由に入浴を拒否されるA様のケースを紹介します。

<利用者紹介>

A様(女性)

82歳 夫と二人暮らし

要介護度2 利用開始日 H26.4月～ 利用週1回

A様は、連れ出し困難のうえ入浴拒否もありました。迎えに行っても「ヒザが、ダメなんです。血圧も高くして・・・。」とその日は布団から起き上がって下さりませんでした。

まずは、スーパーデイへ来てもらわなければいけません。

そこで要介護度1の旦那様と一緒にスーパーデイを利用していただくのはどうかとケアマネージャーと相談しお二人で利用できることとなりました。

2人での利用となってからは2人連れ添ってスーパーデイようざんへ出かけられるようになりました。また、初回の利用時、ご家族からは清潔面を心配されていて、入浴して欲しいとの要望がありました。事前に入浴へのお誘いについては、拒否があることは聞いていたため別の利用者様で効果のあった「体重を量りますのでこちらへ」と入浴ではないことを強調したお誘いをしました。しかし、移動の際に浴槽が見えると「入浴しなくて、大丈夫です。入ると体調が悪くなるから・・・」と表情は穏やかですがどのような声かけにも頑なに拒否が続きました。結局、その日は入浴出来ませんでした。次の利用時、職員が白衣を着て看護師を演じることにしました。

A様のヒザのケアの後を見計らい「足を薬の入ったお湯で温めましょう。」と言って脱衣所に案内し、「先に体重を量りますので服を脱いで頂けませんか？」と脱いで頂きました。体重を量り終えたあと「次は足を温めましょう、そのままどうぞ」と洗い場に誘導しました。体にお湯をかけながら足をマッサージするなど入浴ではなく医者から頼まれたということを強調した声かけを行いその日初めてシャワー浴をすることができました。また、次の利用では、なんとか浴槽へ入っていただくよう全国名湯の入浴剤を準備して「膝に良く効く入浴剤です。どれがいいですか？」とご本人に選んで頂くようにして、入浴して頂きました。その後も、小さい拒否はありましたが声かけや職員の演技で入浴して頂き、今では拒否が全くなくなり湯船の中では職員との話が止まらないほどです。

続いて2つ目のデイサービスにいる事に不安を覚え、帰宅を訴え食事を拒否されるB様のケースを紹介します。

<利用者紹介>

B様(男性)

73歳 奥様と2人暮らし

要介護度1 ご利用開始日 H26. 9月～ 利用週2回

以前は他のデイサービスを利用されていましたが、そこでは帰宅願望がとても強くドアをたたき「俺は帰るんだ！出せ！」と怒鳴っていたそうです。スーパーデイようざんの初日、迎えはスムーズに車に乗って下りました。ホール内にもスムーズに入る事が出来ました。職員間に「あれ？大丈夫なのかな・・・？」という思いがめぐりました。ところがしばらくすると出入り口を探し始め落ち着かなくなり「嫌だったのに、連れて来られたんだよ」と言い「もう帰らせてくれ・・・」と不穏になりました。まずは、何故帰りたいのかの理由を傾聴し職員が個別対応で寄り添い気持ちを落ち着かせました。その後、対策として、事前にB様は、ギターが趣味で学生時代から弾いていたことを聞いていたためギターを準備しておきました。「ギター弾けるんですね、よかったですら1曲弾いて下さい」と用意したギターをB様に見せて、手渡しました。

最初は「弾けないからダメ」と言われていましたが、ギターを手にとると自然と指が動きだし“星影の

ワルツ”や“二人は若い”などの曲を弾いて頂きました。ギターの色音がホール内に響き始めると他の利用者様が自然と歌を歌ってしまうほど盛り上がります。B 様もリクエストに何度も答えて下さりました。ところが、職員達がこれで一安心と思っていると、昼食時にまたもや問題が起きました。配膳をしているとB様が椅子から立ち上がりソファに移りました。職員が昼食の準備が出来た事をお知らせすると「食事はいらない」とその日は、全く召し上がりませんでした。次の利用の時も拒否でした。そこで名女優の登場です！受話器を手に取り「B 様の奥様ですか？いつもお世話になっております。」「はい、午後病院に行かれるのですね。お医者様から検査があり空腹状態では出来ないで必ず昼食を取ってから病院に来てほしいと言われたのですね。承知いたしました。お伝えします。」とB様に聞こえるように大きな声での一人演技、その後B様に対し、「先程奥様から連絡がありまして、昼食は食べたかどうか心配していましたよ。」「これから病院で検査があるそうなのでどうしても昼食を取って頂きたいそうです。」「少しでも召し上がって頂けませんか？」と声かけをするとしぶしぶでしたが席に着き完食されました。今でも、少し拒否がありますが、声かけにより席に着き食事を召し上がっています。また、カルタの読み手や他の利用者様と散歩に出かけるなど、帰る時間を忘れるほど楽しんでいます。家に着くと冗談が飛び出すそうです。スーパーデイ利用前の施設では、家に着くなりイライラした様子で「病院に行ってきた」と言っていたようですが、奥様が言うには全く表情が違い穏やかで「楽しいところへ行ってきたよ」と笑顔で話しているそうです。そして、スーパーデイに行く時のために自宅でギターの練習をはじめたそうです。奥様からは、「ようざんさんなら安心して預けられる」とありがたいお言葉をいただきました。

最後に

時間の関係もあり二つのケースしか紹介できませんでしたが、スーパーデイではいつでも利用者様のプライドを傷つけずにいかにして適切なケアを行うかを心掛けております。そのうえで必要な演技は、おまかせください。スーパーデイようざんの職員は明るくユニークな人ばかりで利用者様の笑顔も多く生き生きとした表情を見ることが出来ると自負しております。これからも利用者様第一にとびっきりの笑顔になっていただくためにスーパーデーター丸となってどこにも負けないチームワークで山木所長のもと「拒否なんてなんのその！」でより良いケアを行っていきたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

おやつの味わい方「ようざん風」

ケアサポートセンターようざん

発表者:塚越 涼介

【はじめに】

今回の事例発表のお題で「ユニット自慢」と言われた際に、「はて…？自分たちの所で自慢できることがあるのだろうか？」と首をかしげてしまいました。

認知症の方や重介護の方も多く、何をしても「はっきりとした、反応を期待できない。」「参加出来る方がいない。」「…と決めつけていた自分たちがいる事にも気づきました。そんな折り、一人のスタッフが「私たちって、ママにおやつ作っていますよね！」と…

【まずはヒントを下さったお礼】

配食センターの本多所長が、四季折々のメニューを考えて頂く事で、利用様との会話の内容に広がりがでています。正月には、紅白かまぼこやなます、伊達巻でおせち気分を…。

桜の時期には、桜餅。お彼岸やお盆には、牡丹餅やおはぎ。暮れには、年越しそば等々。

いつものメニューに、一皿飾られるだけでも、それだけで会話の幅が広がります。ご利用者様も嬉しそうに召し上がっている姿は、いつも感謝しています。

【事例紹介】

「食べる事」は、誰でも生きる上での楽しみの上位を占めるのではないのでしょうか。

私たちも、季節や行事を感じて頂くお手伝いが出来ないか？と考えました。

「そうだ！おやつレクをしているじゃないか！」

私たちケアサポートセンターようざんでは、以前より「おやつレク」と称して、定期的に手作りのおやつを提供して来ました。ユニット内のレクチームで、メニューを考え、材料費も高額ならないように、材料を考えて準備をします。そんな話し合いをすることで、チームが出来上がっていく事も、チームケアとしての力を養う事にも役立っている。また、人生何事も経験は力です。スタッフに「元イタリアンレストランのシェフ」を始め、飲食店勤務の経験者がいます。おやつレクの内容は「雰囲気味わって頂くパターン」と「一緒に作る事を、楽しむパターン」があります。利用者様の笑顔が見たくて、行ってきた内容を自慢します。

《雰囲気を味わって頂くパターン》

- ・室内をほんのり暗くして、ジャズを流します。これから何が始まるのか？興味深々で皆さんが集まってきます。当日のメニューは…
- ・パスタの代わりに、そうめんを利用し「ソウメンがカッペローニ」
- ・クラッカーを利用し「クラッカーがラタテューユ」

若手の職員が、いつもの制服から変身！馬子にも衣装？

・バーテンダーに扮し、シェイカーを振って「ブルーキュアソようざん風」カクテルを…

実は、かき氷のシロップを利用しているんです。「バー」気分を味わって頂きました。次回は、女性スタッフも変身しましょうか？

《一緒につくる事を、楽しむパターン》

・ホットプレートで「お好み焼き」を作りました。材料の準備で、キャベツの下ごしらえ、粉を混ぜたりと、出来る事は利用者様と共に行い、ホットプレートで、焼きます。「材料を仕立て」「焼ける音を聞き」「香りを楽しみ」出来上りを想像しながら「食べる時を待つ」出来上がったものを口に運びながら、利用者様との会話も弾みます。

【その他】

今迄、作ってきたメニューをご覧ください。レシピファイルも作成し、誰でも作れるようにしておきます。「目で、鼻で、手で、口で…」提供される物口にするだけでなく、おやつ時間を「楽しみにできる時間」として頂きたいと考えています。その他にも、ようざんでは「おやつレク」の他にも月間内一週間を「お楽しみ入浴」とし、浴室を季節感が味わえるように飾り付け「民謡」や「懐メロ」「童謡」を流しながら、入浴を楽しんで頂いています。また、毎月「ようざんアルバム」を作って、利用者様との会話の種にしています。どの企画も、「おやつレク」同様、3年以上の継続をしています。

【そして、思う事】

「成せばなる。成さねばならぬ何事も…」時には、失敗もあるけれど『継続は力なり』と感じています。

ひとりひとりが主役になれる事業所

スーパーデイようざん貝沢

発表者:岡田 秀朗

スーパーデイようざん貝沢では、レクリエーションやイベントの中で一人一人の過去の経験やその方の意見を積極的に取り入れて実践していくことを考えている。

今回はその一例を報告する。

<ケース1>

利用者様情報

A 様 84歳
介護度5
既往歴 心房細動、高血圧症、脳幹部出血(右肩麻痺、言語障害)
国鉄の職員として40年間仕事を行う。昭和天皇が来県した際、護衛列車の運転をしていた。退職後は、地域の区長を2期行っていた。

今回、国鉄の職員として40年間仕事をしていたとして、その方を電車に乗せてあげたらどうだろう？という話が職員からあり計画・実施する。

当日準備・・・

- ・勤務地は新前橋駅ということをご家族に確認する。
- ・スムーズに実施できるようにシフトの調整をし、ご家族への企画実施の概要をお話する。「そんなことやってくれるんですか！」と驚かれ、「よろしくお願いします」と承諾をいただく。(ツアー前日、写真を撮る際に着せてほしいということで奥様が選んだ素敵なジャケットと娘様が用意してくれた手編みの帽子を持参される。)
- ・車イスのため、事前に乗車・降車する新前橋駅と高崎駅におおよその時間などを連絡。車両への乗り降りの際のスロープを用意していただける。

当日の様子・・・

- ・前日は自主事業にて泊まりだったので、夕方本人に今回の企画の内容をお話してしまったせいか、夜間ほとんど眠れていなかったとの報告を受ける。
- ・ツアー中予想外に曇りがちな表情になる。新前橋駅では、「(昔と)変わった・・・」「もういいよ・・・」といった発言が見られる。
- ・高崎駅のフードコートで休憩していた際、休憩中のおやつを買いに出る。この時に奥様へのお土産を購入しようと声かけ、何にしようか店内を探していると「最中菓子」を買いたいとの訴えがある。奥様にお土産をお渡しすると、「このお菓子は昔、主人がよく買ってきてくれたんですよ」と涙ながらに話される。それを見ていたA様も一緒に涙をながしていた。

<考察とまとめ>

前日に企画を話してしまったという事で興奮されたのか、睡眠不足での実施ということになってしまった。また、予想外に曇りがちな表情を見せるなど、こちらの予想していた反応とは違う姿が見られ、必ずしもすべての利用者様が喜んで頂けるとは限らないことを思い知った。しかし、エスコートしてくれた駅員さんの動きの良さを同行した職員が「JRの職員さんはすごいですね！さすがです！」と話しかけると昔を思い出したのか、誇らしげな表情も見られた。

<ケース2>

利用者様情報

B様 88歳
介護度1
既往歴 腰痛症、骨粗鬆症、糖尿病、高血圧症、難聴
会社の設備会社の倉庫係として20年勤務。その後は土建会社で道路の舗装などの作業を7年行っていた。

カラオケ好きのB様。「カラオケやらねんかい？」とよく話されている。普通のカラオケならレクリエーションで出来るので、いっそのことカラオケと喫茶が同時に楽しめるカラオケバーを行って全員に楽しんでもらおう！と考えた。

当日準備・・・

- ・「バー」という設定なのでカクテルを提供したいと考える。そこで本格的にカクテル作りの経験があるという他事業所の職員に打診し、当日来てもらえないか相談する。
- ・外部ポスターなどで他事業所に参加の呼びかけ。
- ・一人で歌うのが恥ずかしい利用者様もいたため、職員と一緒に歌う、全員で歌うなど対応を考える。
- ・練習としてレクの中でカラオケを実施。その中でもカラオケが好きな利用者様は笑顔を見せてくれていた。

当日の様子・・・

- ・来所時よりB様は少し緊張した様子見られるも自身の番になると昔からよく歌っていた曲を堂々と歌い上げた。
- ・他利用者様もあらかじめ歌う曲を決めていたためスムーズに進行する事が出来た。

<考察とまとめ>

この企画において、利用者様ほぼ全員に笑顔で楽しんでもらうことができた。中でもB様は特に喜ばれ「本当にたのしかったよ」と満面の笑みで話されていた。今でもカラオケバーの話をする笑顔で「またやりてえなあ～」と話されている。

<最後に>

スーパーダイようざん貝沢では、利用者様が主役になれることを第一に考えている。利用者様から「〇〇がしたい」「〇〇に行きたい」という話があればとにかく職員全員で検討する。検討し、出来る限り実現させていく。そのためには、利用者様をよく知り、よく理解していかなければならないと考える。

これからも利用者様の希望を叶え、「今日は自分が主役」と感じられるサービスの提供をしていきたい。

暖かみと笑顔が溢れる事業所を目指して

スーパーデイようざん倉賀野

発表者:高橋 佐知

【はじめに】

スーパーデイようざん倉賀野は、平成26年3月1日にオープンしました。利用者様第一をモットーに、オープニングスタッフは、4人でスタートしました。

まだ日は浅いですが、日々試行錯誤しながら、利用者様お一人お一人を大切に、ゆったりとした時間を一緒に共有しています。まだまだ人数は少ないですが、個別対応の強みを最大限に活かせるケアを実践しています。まずは、これまでの歩みをご紹介します。

【室内の雰囲気作り】

まず初めに取り組んだことは、室内を暖かみのある雰囲気にしようと利用者様と製作活動に励みました。利用者様、職員ともに会話をしながら、楽しく作品作りを進めていきました。出来た作品は、玄関、壁面に賑やかに飾り付けしました。季節感に合わせた製作にも力を入れました。今では、暖かみのある室内になりました。職員・利用者様一丸になり沢山の製作が生まれました。これからも暖かみのある手作りの作品を作っていきます。

【個別対応の強み】

まだ人数が少ないので、他のどの事業所よりも、ゆったりと個別対応ができます。信頼関係を築くプロセスとして、じっくりと丁寧にお話を傾聴することで、大事にしています。常に一人一人に目が行き届き、ご本人の希望に合わせて、手厚いケアができます。一人一人のペースに合わせて、落ち着いた空間で安心して過ごすことができます。ゆっくりとコミュニケーションを図りながら、何気ない会話の中から、その利用者様の、故郷、趣味、家族、職歴、習慣など人生が沢山見えてきます。それをケアや個別レクリエーションのヒントにしています。すぐに、利用者様のニーズに合わせた個別レクリエーションが提供できることが強みになっています。

毎日の体操は集団ではデュアルタスク、頭頂葉レク、前頭葉レクを取り入れていますが、個別では、一人一人アセスメントを行ない、利用者様ごとに合った訓練メニューを組んでいます。訓練メニューには、ご本人が輝くこと・笑顔になること・トキメキを取り入れることで、様々な良い効果があります。

	A様	B様	C様	D様
機能訓練	歩行訓練 可動域訓練 下肢筋力	線またぎ 太極拳	線またぎ 歩行訓練	下肢筋力
認知症進行予防	回想法(講義)	家事	外出 家事	絵画 家事
トキメキ	歌 講義	太極拳 編み物	調理	絵画 編み物

機能訓練 —ADLや疾病を基に筋力低下訓練を行なっています。

認知症進行予防—認知症のタイプや進行度、ご本人の生活歴や性格に合った予防に取り組んでいます。(デュアルタスクなどはご本人に合わせて全員に行っています。)

トキメキ —ご本人が輝くこと。笑顔になること。

ここで、事例紹介をします。

事例1

利用者様 A様 男性 87歳 アルツハイマー型認知症

職歴の郵便局長という肩書を人一倍誇りに思っているA様。医師からは、重度のアルツハイマー型認知症の診断ですが、職歴の影響もあり、お話好きで、コミュニケーションの部分では支障がないことでした。以前利用していたデイでは、レクリエーションは嫌いで、強い拒否が見られていたそうです。ささいなことですぐに不穏気味になるとの事でした。

まだ利用者様が少なく静かな倉賀野の雰囲気合い、すぐ落ち着いて過ごすことができました。コミュニケーションメインで、A様に寄り添いじっくり会話をすることも個別レクリエーションの一つと重視して続けてきました。ご自身は今現在もまだ郵便局で働いていると思っている為、郵便局での仕事などを教えて下さることで、表情がドンドン生き生きしてきました。個別での対話でA様の興味、関心に沿い、自尊心を尊重しながら、関わった結果、職員との信頼関係が築けました。今では、A様から歌を歌ったり、拒否の見られたレクリエーションにも笑顔で参加されています。散歩が日課となり、下肢筋力運動も午前・午後の2回取り組んでいます。

またご本人より、倉賀野が好きとの発言が聞かれるようになりました。

事例2

B様 女性 79歳 レビー小体型認知症。

利用当初、幻視があり、実行機能の低下が顕著にありました。その為、自信喪失されうつ傾向がある様子でした。日常生活訓練を兼ねて、配膳、洗濯物たたみ、洗濯物干し、テーブル拭き、そうじなど、主婦の顔になり、丁寧に行っています。毎回感謝の言葉を伝えると、それがハりに繋がり、今では日課になりました。

ご自分でできる範囲のことをご本人の負担がないように、継続した結果、自信を取り戻し、ご自宅でも進んで片付けをしてくれるようになったと嬉しい報告がありました。幻視も以前より減り、自発性が高くなりました。

また以前、大極拳と編み物の教室を開いていた経歴を最大源に活かしています。利用中職員に大極拳を教えて頂いたり、ゆっくりではありますが、一つ一つ丁寧に編み物をされています。

利用当初より、表情も明るく生き生きされています。ご家族も以前元気だった時の母に戻ったみたいで嬉しいと感謝のお言葉を頂きました。

またおしゃれが好きだったというB様。先月行われた倉賀野秋祭りで行われたファッションショーに参加され、最高の笑顔を引き出せました。

事例3

C様 女性 79歳 パーキンソン病

利用当初は、幻視や被害妄想を強く聞かれ、気持ちが不安定な様子でした。C様のお話を精神的なケアを第一に考えました。不安に寄り添う、不安を取り除く為、ひたすら傾聴に努めました。その上で初めは外に出て日光を浴びることを目的とした散歩を行ないました。また、足浴やタクティールケアも行いながら、スキンシップを図りました。その結果、安心して、落ち着いて過ごせるようになりました。今現在は、精神的に安定してきたことで、パーキンソン症状改善の為、線またぎ等の訓練を行なっています。

畑作業が好きで、農家だったので、知識も豊富。畑作業を行う際、アドバイスや見守りを行ってくれました。作物の成長が楽しみになり、季節感を肌で感じ、作物や植物から季節の行事、食べ物のお話に繋がりました。

また料理レクでは、回想法に繋がり、うどん作りでは上手にうどんの機械を使い、素敵な表情を引き出せました。利用当初と比べて、体調も安定し、表情も明るくなり、何事にも意欲的になりました。

事例4

D様 女性 74歳 アルツハイマー型認知症

馬鹿になった、もう死にたいが口癖のD様。感情失禁見られ、不安定でした。外に出ることが好きとのことで、散歩をしながら、D様の訴えやお話静静地に耳を傾けました。

お話から、ご本人の趣味の絵を描くこと、手先を使うことが好きとのことで編み物を始めてみると、すぐに効果が表れました。手を休めながら、マフラーを作ってくださいました。そして、息子さんからの希望であったタバコも禁煙にも成功しました。死にたいという悲観的な発言は減り、表情が明るくなり心身ともに健康になりました。

最後に

事業所として歴史も浅く、まだ自慢出来る程誇れるようなことはありません。ですが、各スタッフが介護の仕事が好きだと、そのことだけは自信を持って言えます。そのスタッフの熱い気持ちが倉賀野の一番の自慢です。

「利用者様の笑顔が見たい」それが第一です。大切なのは、認知症のお一人お一人の利用者様に真剣に向き合い、受容と共感の姿勢を大切に、寄り添い続けることなのだと思います。そして、その利用者様に合った日々のケアを実践していくことだと思います。

今後も今回発表した取り組みを継続していくとともに、スーパーデイようざん倉賀野の特色が出せるように、職員一同邁進していきたいと思ひます。また、各利用者様ごとのニーズをしっかりと見極める為の、専門職としてのスキルを磨き、チームケアの向上を図れるスーパーデイようざん倉賀野を確立していきます。今後のスーパーデイようざん倉賀野にご期待下さい。

PREMIUM～心滿意足～

ショートステイようざん

発表者: 山口恵美

～start～

今まさに時代は変わろうとしている。

総務省がまとめた 10 月 15 日時点の人口推計で、65 歳以上の高齢者が過去最高の 3186 万人となり、初めて総人口の 25% に達した。団塊世代が続々と仲間入りし、4 人に 1 人が高齢者という時代を迎えた。時代だけに留まらず、人々のニーズも急速に変化していく中、今まで通りの“普通の福祉(介護)”では顧客満足獲得どころか運営継続も危ないのが現実である。ショートステイようざんが平成 21 年 11 月 1 日にオープンし、ちょうど 5 年が経過する。5 年間走り続けた中で「**団塊の世代が求めるサービスとは一体何か?**」それこそが時代を生き抜く最大のヒント。

今回時代が求める新たなサービスモデルを追求し続けた 5 年間の集大成(進化)をここに報告する。

ようざん Café

毎月 1 度オープンし、心落ち着く Café Room で極上自家製スイーツをドリンクと共にゆっくりと楽しんで頂くサービス。開店時間は 14:00～15:30 となっており、毎回多くの利用者様が来店され、お友達やご家族様と楽しく時間を過ごして頂いております。

ナイトバスサービス

日中(9:00～17:00)にこだわらず、毎週 2 回程度夜間(18:30～20:30)お好きな時間で入浴できるサービスです。日中とは異なり、そこはライトアップされ、お香やミュージック、植物に囲まれ、優雅に入浴することができます。また、6 種類のシャンプー・コンディショナーや 4 種類のボディシャンプーが用意されており、入浴剤等のアメニティーも充実しています。さらにこのサービスを利用することで認知症の不眠傾向の方で約 7 割以上が良く眠れるようになり、起床回数においても以前と比較しても平均 70% 減少という結果(4 ヶ月間統計)も出ています。

玄関・内装

まさに玄関は事業所の顔といえる場所です。来所されたお客様はまずこの場所を見て通過していきます。毎日 2 回お香を焚き、常にリラックス効果のあるミュージックが流れています。利用者・ご家族・ケアマネジャー・業者・他事業所のスタッフ等、毎日多くの方々が来所され、必ずと言っていいほど内部の環境を褒めて頂きます。この環境や雰囲気ですんなり事業所かが検討ついたと言って契約した方々も何人もいます。ポイントは施設間を絶対に出さない事とお客様の目を楽しま

せることが重要です。

Studio youzan

お好きな着物をレンタルし、ヘアメイク、着付け、写真撮影を行い、出来上がった写真をお好きなフレームに入れてプレゼントするサービスです。毎月1度オープンし、3~4名の事前予約制です。ご本人はもちろんですが、ご家族から絶大な人気があり新規利用の際には必ず予約が入るサービスです。中には亡くなった方の慰霊に使用されたご家族も何人もいました。人はいつまでも美しく素敵になることを心から望んでいるのだと感じています。

麺の日

毎月11日に屋台として12:00頃に出店し、お好きな麺と出汁を選んで召し上がることができるサービスです。「自分の食べたい麺を好きなだけ選んで頂く」という選択の自由と群馬県のお麦文化を象徴した本物志向の麺専門店です。現在、麺の日を目的に利用されるリピーターも増えています。

味噌の日

毎月30日に屋台として18:00頃に出店し、約10種類の中から好きな具材と、赤だし・白だしを選んで頂き自分だけのオリジナル高級味噌汁を堪能して頂けるというサービスです。

具材や味噌は高級にこだわり提供している味噌汁専門店です。ここでしか味わえない自分だけの最高の一杯をどうぞ召し上がれ。

フルーツの日 ~vitamin parlor~

毎月22日に開催し、旬の生フルーツをお客様の前でさばき、ミキサーや絞り機で様々な生ジュースを提供しようというサービスです。もちろん剥きたてのフルーツをそのまま食べて頂いても結構です。とびっきり美味しいのはもちろんですが、多くの食物繊維と水分補給を同時に行えるため便秘解消にも効果を発揮しています。またジュースにすることで嚥下障害のある方にも楽しんで頂けるサービスとなっています。

スイートルームサービス

契約等のサービス利用前、またはご家族様・ご本人様より随時ご依頼があった際に、スタンダードタイプからスイートタイプへ変更できるサービスです。多くの客様から喜びの声を頂いています。特に女性に好評なサービスです。また新規利用の初日の方にはスイートルームをご用意させて頂きサプライズを楽しんで頂いています。

BISTRO 鷹山

毎月1回夜オープンし、完全予約制で限定4名様に対し和食と洋食2種類のディナーコースを楽しんで頂くサービスです。各食事や季節に合わせた個室を用意し、ミュージックが流れ、落ち着いた

ある優雅な空間で特別なおもてなしを受けながら、ゆっくりと最高級の食事を楽しんで頂けます。利用者様同士だけでなく、誕生日のお祝いやご家族との特別な食事会などにも活用して頂いています。

Picture ～広報技術～

ショートステイようざんの広報チームが毎月のイベントや外出、サービスを全てピクチャー加工しポスターやパンフレットとして掲載しています。利用者やご家族、来所者全員に対し、気に入って頂いたものがあればプレゼントさせて頂いています。これは最高の広報活動であり、来所者がショートステイようざんの良さを感じて頂ける一番のサービスと言えます。

おもてなし力 ～礼儀正しさ～

株式会社メモリードから専門講師をお招きし、“接客マナートレーニング講習”を受けました。そのノウハウを基に毎日、朝・夕 2 回「挨拶・お辞儀・言葉使い」のトレーニングを欠かさず行っています。このトレーニングを始めて1年8か月が経ちますが、この反復練習こそがショートステイようざんのサービスの質を支えていると言っても過言ではありません。他社と比較して見学に来所された方は皆この良さを評価し、契約率は 90% (8ヶ月間実績集計) を超えます。中には見学しその場で契約をしたがる方もいるほどです。まさに人は“人”でのみ評価するのかもしれませんが。

～Last～

これはもはや自慢ではなく、スタンダードな福祉の在り方ではないだろうか？

現代福祉の当たり前は、もはや当たり前ではない・・・

そう感じるのは時代(人)が変化しているから・・・

そして時代は現代福祉という当たり前を見放し、忘れていくことだろう・・・

普通の福祉(介護)はもう手遅れになります。

時代は待っていてくれません。

そして時代はいよいよ“喜び”と“感動”、そして“高級(PREMIUM)”を求めてくるだろう。

今私達を感じなければならないことは

時代が**変わっていく**ことではなく、**時代を変えていく**ということ。

「時代には終わりが無い。だから私達のサービスにも終わりは無い。」

もしそう考えられたのなら、それこそが **「PREMIUM」**

言葉を取り戻す日を願って

グループホームようざん倉賀野

発表者:佐野史人

はじめに

T様が言葉を失ってから6年。

職員の中には誰もT様の声を聴いた事がある人はいません。

「T様に言葉を取り戻してもらいたい。」これは職員共通の願いです。

T様に言葉を取り戻して頂くにはどうすればよいか。グループホームようざん倉賀野の取り組み、T様の状態の変化を発表します。

利用者様紹介

T様 62才 女性

平成15年 慢性腎不全

平成16年 透析開始

平成20年 前頭葉型認知症 失語症発症

平成22年 交通事故により骨盤骨折 K病院に入院

平成23年 退院 他事業所のショートステイ利用

平成24年6月 グループホームようざん倉賀野に入所される

要介護度3(その後、5に変更)

家族はご主人、息子、娘の4人家族。物静かな性格で、衣料品店に勤め、家の庭の草花の世話が好きな方でした。

入居後の様子

フロア、居室を歩き回り、目についた小さな物、ゴミを何でも口に入れてしまう。衣服やタオル、カーテン、布団といった手近な物を齧る、食事の際、一気に口に入れてむせたりする為、職員が常に側について食事介助する、また、他の方の食事・水分に手を出され、食べようとする、といった行為が頻回にありました。

日常生活動作は全くといっていい程出来ず、失語症の為、ペンを持って頂いても意味のある単語を書く事が出来ませんでした。

取り組み

まず、T様に対し、どの様なアプローチ、治療が有効なのか、それを探す事から始めました。

歌唱レク、文字や絵を描いて頂く、といった事には全く関心を持って頂けず、アニマルセラピーで

はやってきた犬を嘔もうとされたり、うまく行きませんでした。

そこで、T様に最適な治療法はないか、探し始めました。

そんな中、堀江課長に相談した所、紹介して下さった治療法が「コウノメソッド」、そして座間先生でした。

「コウノメソッド」とは

名古屋フォレストクリニック院長、河野和彦先生により構築された認知症診断・治療マニュアルであり、認知症の7割は改善させる事が出来る、河野先生により体系化された実践的認知症治療法です。

内容としては

① 治療優先主義 診断に固執する事なく、患者の症状を改善させる

② 介護者保護主義 介護者を楽にさせる処方をする

③ 家庭天秤法 各薬剤の上限を設定

薬の用量は介護者が設定(医師だけの力での確な薬の種類や量を決定するのは不可能な為)
過鎮静(嗜眠・食欲低下・体幹傾斜等)が見られたら薬を減量

④ キャラクター分類に基づく処方 認知症の病型ではなく、現在の患者の症状に応じ処方を行う。
鉄則として易怒・幻覚・徘徊・暴力といった陽性症状を抑制系薬剤で鎮静化してから記憶障害・見当識障害といった中核症状に対する中核薬を併用する。

⑤ 薬剤以外のサプリメントの活用

⑥ 各認知症病型に適した薬剤の選択(ただし、これに「絶対的」な処方セットは存在しない)

例として レビーセット リバスタッチ+抑肝散+メネシット

ピックセット ウインタミン+フェルガンド または フェルガンド単体

変性疾患セット リバスタッチ+ニューフェルガード LA

といったものです。

「コウノメソッド」を実践しているクリニックのひとつが「ざまクリニック」です。ここの院長、座間先生は河野先生の弟子といってもよい方で、コウノメソッドに造詣が深く、多くの認知症の方の治療に実績を持っている先生です。早速受診の連絡・予約を取り、平成25年7月、埼玉県所沢のザマクリニックにご家族と共に受診に赴きました。片道約一時間半。ちょっとした小旅行、ドライブです。そうしてウインタミン錠12.5mgの処方を受けました。これは緊張や不安を和らげる薬です。これをまず、朝食・昼食後に半錠ずつの内服を始め、日々の様子の細かな変化を観察し、記録に残し、何か変化があれば座間先生に報告・連絡を取る事としました。その後も数週間毎に受診を行い、ウインタミン錠の内服量を少しずつ増やし、日々の状態を観察する事としました。

日々の変化

変化はすぐに表れました。K病院に透析に行かれ、帰ってくると自ら送迎の車から降り、早足でスム

ーズに施設内に入っていかれたり、車の中の物を弄ったり異食されるので装着しているミトンが今までであれば涎や噛み跡があったのが全く噛んだ形跡がなかったり。7月の終わりには、今まで塗り絵を T 様の前にお出しし、ペンを持って頂いても、ペンを齧ってしまったり、色を塗る場所、種類を職員が選ばないと手が動かなかったのが、名前の欄をじっと見つめ、自らカタカナで名前を記入して頂けました。これは些細な行動に思われるかもしれませんが、職員一同、全く見た事がない行動で、皆がびっくりしました。

その後も

- ・メモ帳に T 様のお名前を職員が記入し、T 様にペンとメモ帳をお渡しすると、ペンとメモ帳を齧ったりせず、すんなりと御自分の名前を記入しはじめる。
- ・ご主人・息子さん・娘さんの名前を職員がメモ帳に記入すると、横のスペースにそれぞれの名前を記入しはじめる。しかし、娘さんの名前の横にご主人の名前を3回続けて記入
- ・トイレに入られ、今までであればトイレットペーパーを千切り、異食されていたのが、便器に座り、トイレットペーパーを手元で巻き始める。(ただし、ズボン等はそのまま)
- ・ソファに座り、横に座った職員の手をずっと握っている。職員の腕をさする。

といった、今までに見られなかった行動が見られるようになりました。

ある程度目的をもった行動は、今まで T 様に見られなかったもので、「コウノメソッド」の効果に職員一同驚くと共に、「このままいけば、T 様の症状が劇的に改善し、言葉を取り戻す日も近いのでは。」という希望を抱き、T 様の行動、様子を見守りました。

8月に入ると、更に

- ・透析から帰られた後、ミトンを外しているとミトンを引っ張り拒否。T 様にお渡しして様子を見てみると、止め具にヒモを通し、ご自分で止めようとされる。
- ・メモ帳に漢字を書く。
- ・鏡の前に座り、じっと鏡に映った姿を見ながら、顔を左右に動かしながら衣服の襟を直す。口角を上げ、微笑む。職員の声かけに対し、照れた様子で鏡から顔をそむける。
- ・整容の際、眉毛等のカットの際、今までであればハサミを口に入れようと口を開けていたのが、じっとしている。
- ・化粧水を付ける際も動いたり、舐めようとせず、じっとすまし顔で気持ちよさそうにしている。

という行動が見られました。

しかし同時に、

- ・食事の際、お茶を口に含み、じっと一点を見つめ、固まってしまい、口からお茶が流れ出す。
- ・薬を内服して頂こうとすると、口から吐き出す。

といった行動も見られるようになりました。

9月に入り、ウインタミンを朝・夕2錠ずつ内服となりましたが、お茶を飲みながら固まってしまう行動が更に多くなり、食事の際、今までであれば自ら茶碗や箸を手に取り、早いペースで召し上がる

うとするのを職員が介助し、ペースを保って頂くのが、ぼんやりして召し上がろうとしない、といった様子が見られる様になり、ウインタミンを隔日で朝2錠、昼2.5錠と減らし、過鎮静が収まるのを待つ事としました。

まとめ

T 様が「言葉」を取り戻すのはまだ先になりそうです。しかし、時に文字を書き、時にわずかですが笑顔を見せて下さり、少しずつですが確かに T 様の状態は変化しています。T 様が言葉を取り戻した時、最初に発する言葉は何なのか。ご主人の名前でしょうか。息子さんの名前でしょうか。娘さんの名前でしょうか。はたまた「ご飯をちょうだい。」でしょうか。グループホームようざん倉賀野の職員一同、楽しみにしています。

「エンタティナーな仲間たち」

ケアサポートセンターようざん貝沢

発表者:小林 秀子

私の事業所の自慢は、ズバリ「13人の職員たち」です。

はじめに

私は現在、ケアサポートセンターようざん貝沢の所長として働かせていただいています。皆さんご存知の通り、小規模多機能型居宅介護事業所の業務は、通いあり泊まりあり訪問あり。受診介助あり入院退院介助あり看護師による医療処置あり。認知症ケアありレクリエーションあり。言い換えれば「やろうと思えば何でもできる」多機能施設です。家族の事情による急なサービスの変更、15名定員遵守、ベッドコントロールなどそれはそれは毎日がパズルを組み立てるがごとく面白く、まるでジェットコースターに乗っているようなわくわく感です。私は本当にこの仕事が好きで毎日楽しく働かせて頂いています。

ようざんの理念は「主権在客」それを私たちは「全ては利用者のため家族のために出来ることを精いっぱいしていこう、そして喜んでもらおう」そう解釈しています。けれども所長一人の力だけでは様々な支援を必要とする利用者やその家族を支えていくことはできませんし、急な変更に対応する事もできません。そこには職員一人一人の知恵と、チームとしての結束の固さが必要となります。貝沢の職員は、所長の方針をよく理解し、プロとしての自覚と責任感をもち、頭を使って工夫をし、楽しみながらケアをしています。そしてまるで家族のような仲の良さです。

これから私の自慢の職員をエンタティナーな部分にスポットをあてて紹介します。

介護現場においてリーダーシップを発揮するのは鈴木主任です。ケアマネと介護福祉士の資格を同一年に取得した「切れ者」。パワーと決断力はピカイチです。

レク担当の狩野誠は様々なイベントを企画します。穏やかな中に秘めたる闘志を持っていると信じています。器の大きさを感じさせる飄々としたイメージ。将来性は未知数です。

金子めぐみはなんでもこなす万能選手。物事を大きな視点で見ることの出来る人。元演劇部ならではの演技力と突然の歌のリクエストにも動ずることなく歌いこなす度胸の持ち主。

加部綾は大阪出身の癒し系美人女優。ほんやりとした物言いは利用者に好評。「おばあちゃんの家はどこやったかいな。さよか。ほな行って来るわ」関西弁の赤ずきんちゃんは彼女の代表作となりました。

渡辺美奈子。アンニューイで一見頼りなさそうな風情だが、きっちり仕事のできる女。見えない所でも決して手抜きをしない性格。主役をやりたかったのに悪役に抜擢された「赤ずきんちゃん」ではけだるいオオカミを好演しました。

大工仕事と電気系統はおまかせ。高橋里絵子はまたの名を「高橋工務店」。自前の大工道具はプロはだし。手作りおやつも得意で利用者さんのバースデイケーキから職員のおやつまで作って来てくれます。

山下あき江は、毎月バラエティに富んだメニューを考えて利用者さんと楽しくクッキング。園芸のプロフェッショナルでもあり、四季折々の花を花壇に咲かせてくれます。

優しくて気配り目配りのできる清水千賀子は利用者の異変にいち早く気付いてくれるので助かります。毎年畑仕事に精を出し、沢山の野菜を食卓に乗せてくれます。

小嶋、仁川は今年入職の新人職員です。レクや体操、利用者さんの散歩などに頑張っています。これからの活躍を大いに期待しています。

看護師の塩谷は最も頼りになる存在で、利用者だけでなく職員の面倒まで見てくれる貝沢のお母さんの様な人です。お父さん役ともいえる小林との熟年コンビは、ザ・ピーナツの向こうをはって「ザ・ピスタチオ」を結成し、妖しいデュエットを聞かせます。夢は紅白歌合戦出場です。

小林美沙子は元幼稚園教諭のキャリアを活かし、ピアノ伴奏を担当しています。接遇面に抜きんでいます。優しく穏やかな物腰ですが、芯の強さは半端じゃないとにらんでいます。

貝沢の看板娘、山本瑞紀はフランス人形のような美貌ながら、中身は意外と三枚目。ダンスのふりつけから指導までこなす、明るく親しみやすいムードメーカー。

終わりに

人は誰でも長所と短所をあわせ持っています。苦手なものもあれば得意なものもあります。縁あって同じ事業所となった14人は、得意な事は惜しみなく発揮し、苦手な事はフォローし合って仲良く楽しく仕事をしています。その中で一歩また一歩と成長してきました。なんでも話し合う私たち。泣いたり怒ったり憤慨したり、喜んだり感動したり癒されたり、時には落ち込んだり。けれども毎日が楽しくていつもいつも笑顔の私たちです。このチームワークの良さはどこにも負けない自信があります。いつの日か世代交代の時期となり、ジェットコースターを降りる日が来てもこのメンバーと過ごした日々は私の宝物となるでしょう。ご清聴、ありがとうございました。

第6回ようざん事例発表会

「事業所自慢」



平成26年9月18日

第6回ようざん事例発表会 その2

地域に根差した施設を目指して“グループホームならではの地域交流”

グループホームようざん飯塚 高濱 志乃里 p.2

「みんな、いいえがお」

スーパーデイようざん石原 宮一智子 p.4

「高崎市で初めて」の定期巡回・随時対応型訪問介護看護に取り組んでみて

キュアステーションようざん飯塚 小金澤 玄 p.7

～自然が心に響かせること～

ケアサポートセンターようざん石原 佐藤 亮 p.13

「回光返照」～誕生から17か月の軌跡～

スーパーデイようざん中居 矢野上 仁 p.15

～『栗崎名物手打ちうどん と 畑』自給自足の楽しみ方～

スーパーデイようざん栗崎 有馬めぐみ p.19

ここはようざん学校倉賀野教室 ～“ホッ”とする空間作りへの取り組み～

ケアサポートセンターようざん倉賀野 川連 晃子 p.22

「笑顔の溢れる街の名は ぼから」

デイサービスぼから 北沢 奈美子 p.26

チームワークの先にあるたくさんの笑顔

ケアサポートセンターようざん栗崎 関 美沙紀 p.29

地域に根差した施設を目指して

“グループホームならではの地域交流”

グループホームようざん飯塚
高濱 志乃里

はじめに

グループホームとは地域密着型サービスの一つです。そこで暮らす入居者様は、その地域の住民として、地域全体を活動の場、拠点として生活してゆくことができます。また、今まで住み慣れた土地で生活し、馴染みの人たちの近くで自身の過去の生活との連続性、継続性を保ちながら、家庭的でゆったりとした環境で共同生活をする事で、認知症の進行を緩やかにし、家庭介護の負担も軽減することができます。私たちがグループホームとして、地域との関係をより一層深め、地域に貢献するためにはどのようにしたらよいのか？ 私たちにできることとは何かを考え、行った取り組みを途中経過ではありますが報告します。

グループホームようざん飯塚の地域との関わり

グループホームようざん飯塚では、地域に根差した施設を心がけており、地域交流の一環として今年の3月より町内の区長さんや民生委員さんと話し合いの場を持ち、4月から毎月、飯塚地区で開催されているいきいきサロンに参加しております。飯塚第一町内のいきいき元気サロンに参加させて頂いた際には、認知症とはどのようなものであるかという説明や、グループホームでの生活の様子、共用型デイサービスの紹介をさせていただきました。日頃グループホームにて行っているレクダンスなども披露し、私たちも地域の皆様の輪の中に入り、一緒に楽しみ汗をかいてきました。又、年間行事予定にて計画されている「ゲーム、レクリエーション」でのイベントの提案もする事になっており、地域の皆様に楽しんでもらえるものを企画しようと、グループホームの入居者様にも協力していただきながら一丸となって計画しています。民生委員の方からも是非とのお声をいただきました。

飯塚第二町内のいきいき元気サロンにおきましては、地域の方々から介護について苦勞されたお話や体験談、不安に思っている事などを伺い、とても有意義な意見交換をすることができました。そこで持ち上がった介護に関する問題点、意見や要望などを運営推進会議の場にて取り上げさせて頂き、市の職員などに提案いたしました。これからも地域と行政をつなぐパイプ役になれるよう、地域の方々との活発な意見交換ができればと考えております。翌月のいきいきサロンではグループホーム自慢の手作りの和菓子をお持ちし、お茶会など各種イベントなどのご案内をしましたところ、たくさんの方が興味をお持ち下さり、後日問い合わせがありましてお茶会にご参加いただくことになりました。地域の方が参加されたお茶会では、お客様をお迎えした入居者様の笑顔もはじけ、地域の方との交流により一層会話も弾み、いつもより明るくにぎやかとなり、本格的な先生指導のもと、茶道体験して頂き和菓子にも大変感激していただきました。地域の方からは「普段からこういう施設

に行ってみたくは思っていたんだけど、なかなか機会もなくてね」と、興味深々に苑内をご覧になられてもいました。お茶会終了後には、地域の方が得意だという折り紙を披露くださり、入居者様は、色とりどりの折り紙で作られた八角箱に感心され、一緒になって製作を楽しむ様子が伺えました。又、自慢の玄関前の花壇の色とりどりの季節の花も、利用者様と一緒に、楽しそうにご覧になられ、次回花を植える際には声を掛けて頂き、これからもぜひ定期的に参加させて下さいとのうれしいお申し出をいただきました。また別の日には、鍵の掛かっていない玄関先に下げられているチャイムが音を立てたため、職員が様子を見に行くと、女性が立っておりサロンへ参加された方から話を聞いて尋ねて下さったそうで、子供さんが来年福祉大学を受験されるため、施設見学希望と、職員からの話が聞きたいとのことでした。ぜひお出かけ下さいとお伝えすると、翌日すぐに息子さんと一緒にいらして下さいました。お二人は施設内を見学し、職員の仕事の様子を熱心に見ておられ、いろいろ質問されていき生の現場を見ることが出来て、とても参考になりましたと笑顔で帰られました。現在はボランティア活動にて施設に足を運んで頂いています。ほかにも、北小学校の2年生の校外学習による「町たんけん」では、たくさんの生徒さんが訪問してくれました。本来質問すべき生徒さんよりも、入居者様たちが次々と質問を浴びせかけてしまうこともありましたが、自分たちが生活している町にはこのような場所があり、入居者様と職員と一緒に生活していることに興味を持って、いろいろな質問をしていってくれました。生徒さんたちは、入居者様から渡されたお土産の鉛筆を、とても大事そうに探検バッグにしまってくれました。

現在、グループホームの花壇には、たくさんの「ふうせんかずら」が風船の実をつけています。花壇の脇を通りがかる小学生に、楽しんでもらえて、話ができるきっかけになったら、という職員の思いがかわいいハートの模様が描かれた風船の種を通して実を結ぶといいなと思っております。

まとめ

私たちは今まで、介護が必要な方や、その家族の方だけに目を向けてきてはいなかったでしょうか？この地域には、高齢者だけではなく、赤ちゃんから元気いっぱい小学生、未来に向かって夢を叶えようと努力している高校生、その他、様々な方が共に生活をしているのです。今回の地域交流では、私たちグループホームとその入居者様が、住み慣れた土地で暮らし、まわりとふれあうだけではなく、様々な人のお役に立ちいろいろな形で地域にも貢献できる、そんな希望と自信を持つことができましたし、その方法はたくさんあると感じました。現在、地域密着型の施設やグループホームなどは認知症の相談拠点としても、市や県などから期待されています。本当の意味で地域のお役に立てる「地域密着型グループホーム」としての役割を、これからもより多くの地域住民の方々と交流しながら、模索し続けていきたいと思っています。

「みんな、いいえがお」

スーパーデイようざん石原

宮一智子

<はじめに>

私達スーパーデイようざん石原の自慢は、ずばり22名のご利用者様です。かと言ってここで全員のご利用者様をご紹介する事は難しいので、とても残念ですが泣く泣く割愛をさせていただき6名のご利用者様をご紹介させていただきます。

<利用者様紹介>

氏 名：O様
性 別：男性
年 齢：89歳

ご利用当初は「じゃあ、これで」と急に椅子から立ち上がられ帰ろうとされる事が度々。慌てて「これから〇〇を始めますから、一緒に参加していただけますか？」とお誘いすると腕時計に目をやり「忙しいから時間がないんだよ」との返事。それでも「そうなんですかあ、大変ですね。でも大丈夫ですよ。帰りは車で家まで送りますから」とお伝えすると渋々ながらホールに戻られるの繰り返しでしたが、今では制作活動は集中して取り組まれ塗り絵は絵の情景にあわせた配色と濃淡を上手に使い分けられ綺麗に仕上げられます。歌唱でも「良いですか？行きますよ。1・2の3、はい！」と元気に掛け声をかけられ時にはわざと(?)音程を外され皆さんを笑わせたりと良きムードメーカーになって下さっています。

ご担当の居宅の大坂さんありがとうございます。スーパーデイようざん石原まだ若干の余裕がありますので、よろしくお願い致します。

氏 名：S様
性 別：女性
年 齢：87歳

ようざん石原きっての美人で計算も速く漢字の読み書きも正確で、塗り絵や貼り絵も手際よくとてもお上手と正に才色兼備です。だからと言って決してツンっとされている訳では無くハラハラ感が伴うゲームでは「ドキがむねむねしちゃうわ」と言われるお茶目さと「Sさんは、モテタでしょう？」との質問に「まあね。男遊びは随分したわよ」とさらりと答えられる大胆さも持ち合わされた魔性の方です。

ご担当の居宅の阿部さんありがとうございます。スーパーデイようざん石原まだ若干の余裕がありますので、よろしくお願い致します。

氏 名：M様
性 別：女性
年 齢：68歳

毎回ご自分が苑に到着された時や他の利用者様が到着される度に「おはよう！」と元気に挨拶をされ、常に「ありがとう」「大丈夫？」と他の利用者様のみならず職員にも感謝と気遣いの言葉掛けを下さる聖母の様な方です。

カラオケと制作が大好きで大変お上手です。今回のフォトコンテストのポスターの色塗りも担当して下さい、日頃の腕前を存分に発揮され、見事優秀作品に選ばれた影の立役者でもあります。

氏 名：S様
性 別：女性
年 齢：77歳

前の前にご紹介したS様に負けず劣らずの才色兼備で、レクからお手伝いまでテキパキとこなされ、園芸ではお花の植え込から水やりまでして下さい、お蔭様で残暑厳しいこの時期でもきれいに花が咲いて皆さんを出迎えています。また、ランチやおやつレクでは毎回エプロン持参で参加をして下さい、こちらもテキパキと段取りも指示出しも良く、すっかり職員がお手伝い状態です。2番目にご紹介したS様は魔性でしたが、こちらのS様は姉御肌でリーダー的存在です。『お友達から「最近元気になったわねえ」と言われて喜んでいます。これもようざんさんのお蔭です』とご家族から感謝のお言葉を頂きました。

ご担当の居宅の内田さんありがとうございます。スーパーデイようざん石原まだ若干の余裕がありますので、よろしく願い致します。

氏 名：Y様
性 別：男性
年 齢：89歳

芸術家肌のY様、塗り絵や貼り絵では格段のこだわりが見られ、用紙を“じーっと”見つめたまま1時間。他の方が塗り終わる頃にやっと手が動き出します。こんな事もありました。全員でトンボの塗り絵を始めたところいつもの様にじーっと見つめたまま「最近めっきりトンボを見なくなったね」と隣の方に何度も話しかけるので「口は良いから早く塗れば」と言われても、まだまだ手は動きません。「これから赤トンボの季節になりますから赤で塗りましょうか？」と水を向けても「赤かい？でも翅は透明だよ」と納得されず、とうとうこの日は、白トンボのままでした…

一方でゲームなどでは、年齢を感じさせないその機敏な動きで毎回3位以内入賞の常連さんです。風船バレーでは椅子が倒れそうな勢いで風船を追いかけられるパワーの持ち主でもあり、そんな男らしさと一寸したところで垣間見せる優しい言動で女性利用者様から

人気があります。

ご担当の居宅の沼澤さんありがとうございます。スーパーデイようざん石原まだ若干の余裕がありますので、よろしく願い致します。

氏 名：T様

性 別：女性

年 齢：80歳

椅子に座って何かしているよりも体を動かすのがお好きで、運動系のゲームではハッスルされ毎回上位入賞されています。「Tさんは、子供の頃お転婆だったでしょう？」とお尋ねすると「バレーボールをしていたのよ」との事。これに“どうりで”と一同納得。かるたでも椅子から立ち上がられ戦闘態勢。取り札をたくさん持っている利用者様には「あんた、ちょっと遠慮しな！」とぴしゃり。緊迫感の中でお札では無く笑いを取られています。

以上、代表で6名のご利用者様のみのご紹介となりましたが、その他の方も個性豊かで、私達職員は毎日楽しく時には悲しみや悔しさの中で様々な事を学ばせていただいている事に気づかされます。紹介の中でご家族から感謝の言葉とありましたが、実は私たち職員がご利用者様やご家族に感謝の気持ちで一杯です。

この気持ちを胸に職員一同恵まれた環境の中でご利用者様、ご家族、地域の為に“安心・安全・笑顔満開”のスーパーデイ石原を築いて参ります。

「高崎市で初めて」の

定期巡回・随時対応型訪問介護看護に取り組んでみて

キュアステーションようざん

小金澤 玄

- ① キュアステーションようざん飯塚とは、
定期巡回訪問介護看護サービスを行う事業所として平成25年9月15日に開設し、当時群馬県では2件目、
高崎市では初めての事業所です。
日中・夜間を通して、24時間365日、一人ひとりの生活のリズムに沿った訪問介護、訪問看護のサービスが受けられます。
- ② キュアステーションようざん飯塚では、
サービス付き高齢者住宅「ブランドールようざん飯塚」にお住まいの30名への訪問介護・訪問看護サービスと、住み慣れた地域での在宅生活の継続を目指す「地域」訪問介護・訪問看護サービスの2種類のサービスを提供しています。
地域定期巡回訪問サービスでは、ご利用者様のニーズに合わせて夜間の訪問も行っています。
- ③ 訪問介護との違いは、
訪問介護サービスは1度訪問サービスを行うと概ね2時間間隔をあげないと利用できませんが、キュアステーションようざん飯塚が行っている地域定期巡回訪問介護看護では1ヶ月の利用料金が定額で24時間365日
いつでも・何度でも訪問が利用できます。
- ④ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護とは(定期巡回・随時対応型訪問介護看護 基本指針)
要介護状態になった場合においても、その利用者が尊厳を保持し、可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営む事が出来る様、定期的な巡回又は随時通報によりその者の居宅を訪問し、入浴・排泄・食事等の介護、日常生活上の緊急時の対応、安心して自宅で生活を送る事が出来る様にする為の援助を行う。療養生活を支援し、心身の機能の維持回復を目指すものである。

介護と看護が連携し、利用者の心身の状況をきめ細かく把握して柔軟にサービスを提供する。24時間対応の安心をプラスした、従来のものとは全く異なる新たなサービスである。介護が必要となっ

でも、また、中重度の方であっても、利用者の状況とニーズに沿ったサービスを提供することで、住み慣れた地域での在宅生活の継続を目指す。

定期巡回サービスの訪問時間や訪問回数、サービス内容等が一人ひとりの心身の状況に沿ったものとなる為に、ケアマネジャーと計画作成責任者、介護と看護、地域医療等が連携を密にし、高齢者の暮らしを多職種によるチームでしっかりと支えていくものである。

<事例1>

認知症の方の独居生活を定期巡回サービスで総合的に支援

■サービス利用開始時における本人の状況

【性別】 女性 【年齢】 85才 【身長】 145cm 【体重】 35kg

【要介護度】 要介護1 【病歴】 アルツハイマー型認知症 甲状腺機能亢進症

【服薬】 有り

【障害高齢者の日常生活自立度】 J2 【認知症高齢者の日常生活自立度】 II

■サービス利用開始時における家族の状況

【同居家族】 なし(独居)

子供が亡くなった事で離婚。

再婚するが6年前に死亡。【家族図】

【別居家族】 義兄

足門に住んでおり、年に数回顔を見せに来る程度。ほとんど関わりはない状況である。

■サービス導入前の状況

【導入前の状況(サービス利用を検討したきっかけ、理由)】

6年前に夫が亡くなり借家に一人暮らし。大家さんが裏に住みなにかと世話を焼いてくれる。義兄が足門に住み、

あまり行き来は無い。平成25年2月頃より認知症の症状が現れる。物忘れや被害妄想があり、友人の女性にお金を返せと何度も訴えて、その女性が包括に相談し来所する。その後包括が関わるが受診や介護に強い拒否がある。大家さんが付き添う事でようやく受診し「アルツハイマー型認知症」と診断される。しかし、服薬管理出来る環境でなく、薬の処方はされなかった。義兄の申し立てにて成年後見人が決まり9月より後見開始。T 医院 T 先生が訪問診察を行う。長谷川式11点。歩行には問題なく近隣スーパーに歩いて買い物に行く事が出来る。洗濯は出来るが、掃除は出来ない。ガスは止められている為入浴はしていない。炊飯は出来るがおかずはスーパーで購入し食べている。後見人から渡されているお金で何とか支払いは出来ている。安否確認に訪れるヘルパーなど

の訪問や介護を受ける事には強い拒否がある。

【導入前の利用サービス】

介護保険サービス:訪問介護 T 医院 T 先生往診

【本人及び家族の希望】

毎日買い物に出かけて、自分の目で見て好きな物を買って食べる。ごはんを炊くのも日課である。これからも家で生活し、出来る事は自分でしたい。

※ケアマネジャーと計画作成責任者はどのように考えたか？

身体介護 安定した精神状態を維持していく為に服薬が必要だが、薬の管理が出来ていない。確実に飲める様に訪問介護員から手渡す必要がある。アルツハイマー型認知症があり、食事を摂ったかどうか不確かである為、適切に食事を摂るように声掛けや配膳の支援が必要だが、本人の気に障らないよう、声の掛け方に配慮は必要である。

生活援助 洗濯は途中で忘れてしまう事もあるが何とか出来ている。不要な物を捨てたり、掃除や整理整頓が出来ない状況である。室内の清潔保持の為に掃除が必要だが、物盗られ妄想がある為、何かを破棄する時は、本人の見ている所で一緒に確認を行いながら破棄する必要がある。また期限切れの食品を口にしている為、確認が必要である。買い物は持っているお金を全部使ったりする為、日常生活用品に関しては代行による買い物支援が必要である。

医療・看護ケア 定期的な往診があり、服薬がきちんと出来ていれば特に問題なし。

随時対応 ケアコール端末の操作に関してなかなか理解が進まない、緊急時には電話を使用する可能性が高い。

その他 金銭管理については、親族から協力が得られない為、成年後見人制度による支援を受けている。

総合的援助方針 ・服薬管理をきちんと行い、安定した精神状態の維持を支援する。

- ・食事を定期的にとる事で、心身の健康状態の維持・回復を図る。
- ・自宅で安全に日常生活が送れるよう、買い物代行や環境整備を行う。

■サービス利用による効果

人との交流の無い生活をしていたが、きめ細かな訪問により、他の事業所では対応困難だった利用者様が訪問介護員を受け入れてくれるようになり、色々な話を自発的にするようになっていく。1度腰痛で動くことが出来なくなった事があったので、訪問時に体調の確認を行っている。その為本人の訴えがあった際には、迅速に対応出来ている。食事も訪問介護員を受け入れる様になった事により、配食サービスを行い定期的に提供でき摂取出来るようになっていく。お金が手元にあると使い過ぎてしまうという問題はあるが、残りが少なくなると慎重になるといった努力も見られる様になった。

本人は、自分で出来る事はしようとしており、本サービスを利用する事により混乱が軽減され、意向に沿った生活が送れている。今では、外に出る事にも抵抗がなくなりブランドールのデイサービスを

利用する事も出来ている。

<事例2>

医療との連携により、認知症高齢者の日常生活を支援

■サービス利用開始時における本人の状況

【性別】 女性 【年齢】 82才 【身長】 155cm 【体重】 48kg
【要介護度】 要介護4【病歴】 レビー小体型認知 逆流性食道炎 神経因性膀胱炎
【服薬】 有り
【障害高齢者の日常生活自立度】 J2 【認知症高齢者の日常生活自立度】 M

■サービス利用開始時における家族の状況

【同居家族】 夫(87才)

長男夫婦

孫(20才) 【家族図】

本人 夫

長男 嫁 次男 嫁

【別居家族】 次男夫婦

吉井に住んでおり、時々プランドールに面会に来る。

■サービス導入前の状況

【導入前の状況(サービス利用を検討したきっかけ、理由)】

8年前に抑うつ症状を発症。平成24年4月頃より頻尿や物盗られ妄想・幻視が出現する。歩行障害も増悪し、同年12月頃S病院に通院始める。平成25年5月頃よりさらに頻尿・物盗られ妄想・幻視等の症状が増悪し、夫や家人などに暴力も振るうようになってしまった。自宅での対応困難となりS病院受診し入院加療となる。レビー小体型認知症と診断を受ける。入院中薬剤に過敏となり悪性症候群となってしまう漢方の処方のみとなる。平成25年9月7日退院し、翌日よりようざん内のデイサービスや訪問介護を開始する。

その後、同年10月13日プランドールに入居となる。

【導入前の利用サービス】

介護保険サービス： デイサービス 訪問介護

【本人及び家族の希望】

本人：家に帰りたい。時々、前胸部呼吸苦が出現し過呼吸状況有。辛いので楽になりたい。家族と一緒に暮らしたい。

家人:ブランドールで穏やかに生活をして欲しい。

※ケアマネジャーと計画作成責任者はどのように考えたか？

身体介護 ブランドールでの生活が出来る様にする為に服薬が必要だが、向精神薬の悪性症候群が出た事により中止となってしまった。埼玉県所沢市にあるぎまクリニックを受診し、レビー・ピック複合型認知症と診断を受ける。ウィンタミン・セロクエルを服用・リバスタッチパッチ貼付やニコリン注射で様子を診る。細かな変化や様子を観察し記録に残す。変化がある場合は受診日以外でも、看護師よりドクターに報告し指示を仰いだり、ケアマネジャーに報告し、対応する。

生活援助 物盗られ妄想がある為、居室の掃除を行う時は本人の見ていない所で一緒に確認をしながら行う必要がある。デイサービスで入浴し脱いだ洋服がないと騒ぐ事がある為、いつでも本人が確認できるロッカー内に入れておく必要がある。

医療・看護ケア 定期的な受診があり服薬をきちんとしているが夜間不眠であったり、不穏状態となり他の利用者居室を訪室したり、お腹が空いたとの訴えが多く、職員の目を盗んでは冷蔵庫内の食べ物を食べてしまう。帰宅願望から「お父さんと呼んで！」など大きな声を上げる。その為、看護師と連携し主治医との連絡・薬の調整などを行う必要がある。また、毎日の記録などから得た情報を手掛かりに定期的な看護・介護カンファレンスを行う。

随時対応 ブランドールに入居中である為、不穏時等は職員が傾聴するなど本人に寄り添う。居室においては「いつでもすぐに誰かに連絡が取れる」というナースコールを本人に使用してもらい、体調の急変時など予測が出来ない緊急時の対応を速やかに行う。

その他 毎日顔を合わす職員との関わりを通じて、みんなが自分の事を気にかけていてくれるという信頼関係の構築。また、デイサービスを利用し気分転換も図る。

総合的援助方針 ・心身の変化を的確に読み取り、本人の状況に応じたケア・及び服薬調整を行う。

- ・定期巡回で本人の状況をきめ細かく把握し、必要なケア・サービスを柔軟に提供していく。
- ・ようざんで初めてのレビー・ピック複合型と診断を受ける。症状の悪化を防ぐために確実な内服管理を行う。

■サービス利用による効果

退院後に家族の介護負担軽減を図る為、ブランドールへの入居となった。定期巡回・随時対応のサービスを利用し、きめ細かいケアを行ったことで、今では毎週土曜日に自宅への外泊が出来る様になり、お正月やお盆などでは2泊する事も出来るまでになった。看護師による服薬管理や定期受診、主治医へのアプローチや介護との連携でのカンファレンスなどにより、本人の混乱や家族の介護負担を軽減する事が出来た。

不穏時などの状態に合わせた柔軟な対応が出来、本人もブランドールでの生活をしながら定期巡回・随時対応の利用を継続し、本人や家族の望んでいる自宅への生活復帰が出来るのではと希望が見えた。

家族からも、「これで仕事をしていても安心していただける」と言われ、本人と家族の心の余裕が垣間見えるようになった。

事例1・事例2に携わってみて、職員はこんな事を感じました…

- ① 自宅や入居から看取りまで携われて、人生の最期を送り出せる貴重な経験が出来る職場である。
- ② 家だからこそ、その人のペースを大切に過ごしていただける様に心配りが出来る様になった。
- ③ 夜会議などを定期的に行い、何でも意見の言えるチームワークが出来た。
- ④ 自分で仕事を見つけられ動ける様になった。
- ⑤ 職員同士で上手く連携が取れる様になった。
- ⑥ 分からない事や苦手な事は自分で学ぼうとしないといけないと感じた。
- ⑦ 前の職場よりやりがいや楽しさを感じる。
- ⑧ 何より仲間を尊敬出来る。

<まとめ>

キュアステーションようざん飯塚は開設からちょうど1年が経ちました。

しかし、まだまだ正しい制度の周知・理解が進まず利用者を取り巻く環境や心身の状況に応じての対応に改善が必要だと感じています。

本来の趣旨である「柔軟」「きめ細かい」「安心」を届けられるキュアステーションであり続ける為に…仲間と共に反省・努力をし続けている事が

キュアステーションようざん飯塚の自慢です。

～自然が心に響かせること～

ケアサポートセンターようざん石原

佐藤 亮

(はじめに)

ご家族や親類の方が利用する介護施設を選ぶ時、皆さんは何を基準として選ぶでしょうか？使いやすさ、利用料金、職員や施設内の雰囲気、基準は色々あると思います。その中で施設の立地条件というのも大きなポイントとなるのではないのでしょうか。穏やかに、のんびりと散歩や自然を楽しめる環境。このような環境の中にあるのが私達のようざん石原です。

「ピンポン」玄関のインターホンが鳴り見学希望の方がいらっしゃいました。一通り施設をご覧になり、詳しい説明をさせて頂き、質問なども伺い、見学も終了。お帰り際にいつも頂く言葉があります。「ここはのどかで自然もあっていい所ですね」と言う内容のお言葉です。

そのような時、私達は「ええ、皆さんそうおっしゃいます。お勧めですよ。」と自信を持ってお応えします。このようなようざん石原のある石原町と施設周辺のご案内をさせて頂きたいと思います。

皆さんは「石原町」と聞いて、まず何を思い浮かべますか？「ん～、観音山のそば？」、そうです。観音山の麓にあります。その観音山も白衣観音や護国神社、染料植物園は利用者様とよく行かれる馴染みのスポットだと思いますが、聖石橋を直進する「観音通り」を進んでいくと「清水寺」が見えてきます。清水寺は地元で、「あじさい寺」として有名で、6月には「あじさい祭」も開かれています。ただ階段が多いので、利用者様と行くより、彼氏彼女と是非どうぞ。

では、観音山は出掛けるとしたら、いつですか？「今でしょう」それは去年の流行語です。

「やはり、桜の頃？」、その通りです。春夏秋冬どの季節も趣があつて素敵なのですが、やはり4月、桜の花の頃は格別です。近くで観てもきれいですが、烏川の対岸、国道沿いから、桜色に染まった観音山を眺めるのも、なかなかだと思います。

ところで、市街地から烏川には、和田橋、聖石橋、城南大橋とありますが、そのうち聖石橋と城南大橋が石原町に面して架かっています。実は、聖石橋を渡った烏川西岸が桜の名所なのです。河川敷のグランドそばにテーブル、ベンチがあつたり、バーベキューエリアがあつたりと、利用者様と来るにもオススメのスポットです。屋外トイレもありますが、ようざん石原のトイレをご利用下さい。

そして、ここ石原町一の自慢が石原緑地公園です。城南大橋の南側から聖石橋の北側まで南北に全長約1km、面積は14,3haと市内最大の緑地公園ですが、広さだけでなくその整備された環境も高崎一だと思えます。南端は犬と一緒に遊べ、テーブルもあるピクニックエリア、そこから北端まで芝生の緑が広がっています。小川や蓮池、そして緑を縫うように遊歩道が通っており地元の方々の憩いの場となっています。また、平日はグランドゴルフの練習、時には大会が開かれたり、適度にアップダウンのある緑地は絶好のランニングコースとして、日々トレーニングに励む方や競技会も行われています。

天気の良い週末ともなれば、家族連れで賑わっています。

ようざん石原はそんな緑地公園のすぐ隣にあります。

四季折々、夜明けから日没までいろいろな表情をみせてくれる緑地公園。当然のことながら、ようざん石原の利用者様ともよく散策に出掛けます。桜の木の下でお弁当を食べた4月、土手を吹き抜ける風が気持ち良かった5月、蓮の花を観賞したのは6月の午前中です。そして、夏。猛暑日の日でも烏川を吹きわたる風は涼感があり、爽快感すらあります。そんな風を感じ、陽射しを浴びる時、改めて自然の大切さ、健康であることの、そして、生きていることの有り難さを実感します。それと同時に、利用者様との、人と人との出会い、この一瞬を大事にしなければ、との思いに今更ながら気付かされます。それは、自然に触れないと忘れがちなことかもしれません。

ここにいらっしゃる皆さんに声を大にして言いたいです。「職場の人間関係に悩んでいませんか？」

「毎日のレク、行き詰っていませんか？」仕事でもプライベートでも、壁にぶち当たっていませんか？

そんな時、石原緑地に立ち寄ってみませんか？。大きく伸びて深呼吸をして見て下さい。芝生の上で大の字に寝そべってみて下さい。「自然は大きい。自分はちっちゃいなあ〜」と実感できると思います。何も問題は解決していないかもしれませんが、大きかった問題も「それ程でもないか」と感じ、「明日から、もうちょっと頑張ってみようか」と「プチやる気スイッチ」が入るかもしれません。

この原稿は緑地公園のベンチに座って書きました。いろいろな事に行き詰まってへこんでいたのですが、風に揺れる木々を見、小鳥の囀りを聴き、雲を眺めているうちに、「何をそんなに悩んでたんだっけ？」と、心も晴れていました。

利用者様と散歩をしていると、利用者様からは必ず「ここは気持ちいいね〜、」と言うお言葉を頂きます。その言葉の奥には、私がこの環境で感じとった爽やかな感覚を利用者様もきっと同じ思いで、感じられているのだろうな、とその都度、確信しています。

(まとめ)

天然の芝生が敷き詰められ、そこを吹き抜ける風、降り注ぐ陽射しは、自然そのものです。そのような自然の中にと、人間も自然の一部なんだな〜と実感するとともに、「自然な自分」になれる気がします。それは職員だけではなく、利用者様も同様ではないでしょうか。

自然の中では、認知症も関係ない“ありのままの自分”に戻れる気がします。フロアー内では決して見られないような表情をされたり、積極的に話されて会話が弾んだり。そんな利用者様と触れ合う度に「目に眩しい緑や陽射し、爽やかな風たちが心の扉をノックしているのでは」と改めて感じ取ることができるのです。

「ピンポン」玄関のインターホンが鳴りました。

どうやら見学希望の方のようです。

きっとこの方もお帰り際におっしゃるのは、「ここは、いい所ですね」だと思います。

「回光返照」

～誕生から17か月の軌跡～

スーパーデイようざん中居
矢野上 仁

【はじめに】

スーパーデイようざん中居がオープンして1年半が経ちました。思えば駆け足で色々なことに取り組んできました。四字熟語に「回光返照」という言葉があります。意味は自らの光を外へ向けるのではなく、内なる自分へ向けて、心の中を照らし出し、自分自身を省みるという意味です。ガムシヤラに進んできた私達ですが今まで利用者やそのご家族、ケアマネージャーの方々から要望があった事例に対して行ってきた自分たちのケアをここで振り返ってみました。職員紹介と共にその歴史をご紹介します。

【平成25年4月1日】<スーパーデイようざん中居生誕の日>

オープン当時のスタッフ紹介です。

- ・まずは私、スーパーデイようざん中居利用者限定「ようざんーいい男」矢野上。
 - ・どなたにも低姿勢で「ザ・素直！」な吉田さん。
 - ・レクも看護もお任せの「オールマイティー」な猪熊さん。
 - ・そして『ザ・スーパーデイようざん中居！』この人がいなければ成り立ちません！レクの締めには積極的におチをつけてみんなを笑わせてくれる行方所長。
- 各事業所から先鋭のスタッフが集まりました。

オープン当時は日々の利用者数0～3人と非常に苦しいスタートでした。女性の方で裁縫や習字が出来る利用者の方が多く、ホールの飾り(日付カレンダーや壁画など)と一緒に作って頂き、「利用者と共に作っていく」をテーマに取り組みました。

その中でお一人、女性利用者で来所拒否、帰宅願望の強い方がおられました。

名前、性別	Aさん、女性
年齢	87歳
要介護度	要介護3
障害高齢者の日常生活自立度	J1
認知高齢者の日常生活自立度	Ⅲa
既往歴	認知症(アルツハイマー型と思われる)。 高血圧

家族からは元々外に出掛けたくない人で外に出られるか心配。かといってずっと見てられない。物忘れによる過食が心配。疲れた……。という話でした。

そんな時こそ私たちの出番！「まかせてください！」

個別対応でのドライブなどを積極的に行い、常に寄り添って話すことを心がけました。その結果、徐々に信頼関係が築け、当初週2回利用だったのが現在では週5回の利用になりました。ご家族様からも毎回のようにふれあいノートに感謝の言葉が記載されており、1度は入院したのですが退院後も是非こちらでお願いしたいとのお声も頂きました。

【平成25年5月】<新しい仲間>

オープンから1カ月が経った5月に入り新たに佐藤統子さんがスタッフとして参入。

・この人がいるから職員が色々出来る、最後をまとめるしっかりものの佐藤さん

この頃から、男性利用者の方も増え始めました。その中でお一人だけ紹介させていただきます。

名前、性別	Bさん、男性
年齢	86歳
要介護度	要介護度2
障害高齢者の日常生活自立度	A2
認知高齢者の日常生活自立度	Ⅱa
既往歴	アルツハイマー型認知症、慢性硬膜下血腫

利用前は通所リハビリを利用していたが意欲の減退が始まり自宅で寝たきりになっていることが多くなった。外に出るのも億劫とのことで家族やケアマネからは以前のように畑へ出かけるぐらい元気になってほしいとの要望がありました。

そんな時には私たちに「まかせてください！」

ここでも寄り添って話を聞いていくことを中心にしていたのは当然のことですが、運動不足からの足の浮腫みがあったのでそこに着目しました。ケアマネや医師に許可を得てから足浴＋マッサージを行ってみました。日を重ねると足の浮腫みも良くなってきて、その事が本人の意欲向上に繋がりました(現在では足浴時にはリラックスした曲を流したり、アロマキャンドルを灯すなども行っています)。現在は元気になりすぎて再び通所リハに戻ってしまいましたが、ケアマネからは「あの時ここがあったから今の元気なB様がいる」と意欲が出たことへの感謝の言葉をいつもいただけます。

【平成26年6月】<フレッシュな新人2人が参入！>

・何事にも積極的にしっかりしているが一番若い27歳の小林さん。

・利用者から孫のように愛されている栗原さん

【平成25年11月】<ターミナルケア>

初のターミナル宣告を受けた利用者様をお受けしました。

名前、性別	C様、男性
年齢	81歳
要介護度	要介護度3
障害高齢者の日常生活自立度	B1
認知高齢者の日常生活自立度	Ⅱb
既往歴	認知症(脳血管型、水頭症認知症かと思われる) 胆管癌、狭心症、心不全、前立腺肥大

ターミナル宣告を受けているけどデイに行っても少しでも他者と触れ合ってもらいたいけど受け入れもらえるか心配・・・。

ターミナルでも心配しないで「まかせてください！」

末期ガンで余命宣告を受けてから4か月が経っていてからの利用ということでした。元教師ということで職員は生徒となって寄り添って話を聞いていました。工作や絵が好きということでソファの台のペンキ塗りをレクで行なった所、目を輝かして指示をしたりご自分で塗ったりされていました。途中で看取りサービスに変更となり、翌年1月に逝去なさいました。ご自宅に趣味で描いたという油絵がたくさんあり、ご家族様の希望もあって数枚いただきました。今でもホールに飾らせてもらっています。

【平成26年6月】<最後の職員、飯濱さん参入！>

・優しい笑顔、利用者への接し方は職員の見本！飯濱さん

【まとめ】

本当にほんの一部しかご紹介できませんでしたが、今までのスーパーデイようざん中居の軌跡を辿ってみました。認知症状が軽く一般のデイサービスでも過ごせそうな方が少人数で今後の認知予防の為にあえてスーパーデイを利用する方、機能訓練重視の方、ターミナル宣告を受けた方、また、今回はご紹介できませんでしたがアルツハイマー型認知症でももっと重度の(記憶や見当識障害が顕著)な方や、前頭側頭型認知症で反社会的行動をしてしまう方、医療依存度の高い方など、振り返ってみると様々な方が利用していることに驚かされました。と同時に私達の仕事で大切なことは何か？を考えるキッカケともなりました。

どんな利用者の方が来ても柔軟に対応する姿勢がやはり大切で「ウチは認知症の人しか受けないから」ではなく「困ったらまず遊びに来てください。中でも認知症は詳しいですよ」というスタンスが求められていると思います。利用者のニーズは寄り添って関わらないとわかりません。そこで何よりも大切なのが「人」。おかげさまで家族からのお礼ではダントツに多いのは「このイベントや、レクを本人

喜んでいた」も多いですが、それよりも「職員さんがみんないい人」これがダントツです！朝のお出迎え時や、帰りのお見送りは必要最低限の職員をホールに残し、外の玄関まで出てお見送りをしています。

最高の「人」でこれからも柔軟に対応できる「笑顔のなんでも屋」を目指したいと思います。

～『栗崎名物手打ちうどん と 畑』 自給自足の楽しみ方～

スーパーデイようざん栗崎
有馬めぐみ

はじめに

「手打ちうどん」と「畑作り」がスーパーデイようざん栗崎に根付いたことでたくさん笑顔が生まれています。「栗崎名物手打ちうどん」・「栗崎アグリファーム」を始めて今年で3年になります。この手打ちうどんと畑作りを機に利用者様に変化が見られ、生活の楽しみの1つになっています。今回の発表は、スーパーデイようざん栗崎の畑と手打ちうどんを皆様に紹介いたします。

全員参加で楽しめる

現在、スーパーデイようざん栗崎では、64歳から94歳まで幅広い年齢の方々がいらっしやいます。また、介護度や認知度またADLに至っても様々です。そのため、作業においても向き不向きがありますが、畑・手打ちうどんでは、各利用者様ができることや自主性を尊重し、無理強いせずに参加して頂いています。製麺機を回して頂く・うどんをこねる（足で踏む）作業、収穫したばかりの新鮮な野菜の臭いを嗅いで触れて頂き五感に働きかける、些細なことでもその人にできることを尊重し、楽しめることを前提に取り組んでいます。

畑

畑を開始するきっかけは、身近に季節感を感じることができる場所を作りたいという考えからでした。今では、窓を覗けば季節の野菜たちを眺めることができ、実際にさわって何の野菜なのか日々収穫する楽しみに感動が生まれています。また、皆様に季節感や親近感を持って頂く為、作付けには馴染み深い野菜を選定するよう心掛けています。おかげさまで、昨年秋から今年の春にかけて「白菜・かぶ・オータムポエム」を収穫し今年の春は「じゃが芋・スナップエンドウ・ブロッコリー・いちご」夏は「キュウリ・ゴーヤ・オクラ・ミニトマト・パッションフルーツ・ナス」などたくさんの野菜と果物を収穫することができました。他に「マリーゴールド・ペチュニア・スノーポール・ジュリアンなど」のお花も植えて楽しみました。この秋には「かぶ・小松菜・オータムポエムなど」予定しています。主な農作業の内容としては、耕す、植えつけ、水やり・草むしり・まびき・収穫などがあります。どの作業も楽しく利用者様と行なっています。なかには、鼻歌を歌いながら農作業をしている利用者様もおられるほどです。農家出身の利用者様も多く、随所に農作業や畑作りのコツを教わりながら、皆様と楽しい時間を過ごしています。

また、ご近所の鈴木農園さんは、肥料の御裾分け、耕うん機での手助け、農業における

指導など、栗崎農作業の縁の下の力持ちを担って頂いています。時には「今年は上手くできたなあ」と褒めて頂きみんな大喜びで、益々勢が出ます。

手打ちうどん

手打ちうどんは、月に1回昼食レクとして行っています。季節に合わせて、前菜や汁を変えています。主に、利用者様と作業される事は、下ごしらえ(汁と前菜づくり)・生地踏み・生地伸ばし・製麺作業です。

汁や前菜の下ごしらえは、主に女性の利用者様と行うことが多いです。そして、この時期はどんな野菜を入れた汁がいいか相談しながら作ります。生地踏みは、足腰のトレーニングになる為、多くの方に足を動かして頂き機能訓練も兼ねています。生地伸ばし・製麺作業の際には、製麺機を使用します。製麺機に対し、皆様思い入れが強く、「これ持っていたよ。昔よく使ったなあ。」特に製麺機から美しく裁断された麺が出てくる瞬間は「ホラホラ、できた。きれいにできた。」と手に取って感動しています。「懐かしい！久しぶりに使う。うまくなるかな。」と昔の食糧事情や思い出話をされながら、和気あいあいとした雰囲気です。

ここ最近では、畑で収穫した野菜などを天ぷらにして、あつあつの揚げたて天ぷらを召し上がっています。自分たちの作った野菜ということもあり、美味しさ倍増です。

手打ちうどんの日は、皆様の食も進み、おかわりをされる方もたくさんいらっしゃいます。普段、食が進まない利用者様も、大好きな手打ちうどんの日ばかりは完食されます。

利用者様の変化

① 来苑されてからなかなか落ち着かず、不穏不安症状が強い利用者様のケース

農作業が大好きな方の為、朝の水やりをその方のお仕事にしました。落ち着きがなくなると畑に行き水やり。時には、草むしりや収穫。農作業の後には、必ず職員が「今日も、ありがとうございました。」と感謝の意を伝えています。日を重ねるにつれ、農作業の楽しみを見つけたことで、来苑時の役割となり、ご自身の存在感を見出したことで不穏不安症状が緩和され、落ち着かれる時間が増えています。

② 意欲低下がみられ家事ができなくなってしまった利用者様のケース

自宅では、しばらく炊事をしていない利用者様。手打ちうどんの時は、職員と一緒に前菜やうどん汁のメニューを考えて作ることにしています。回数を増すごとに、料理に対する意欲がでてきたようで「次はもっと上手に作りたいね。」「次は冷やしうどんにしてみる？」など、意欲的な言動が増えてきています。

ご家族から、自宅でも炊事など家事を積極的にされるようになり、「認知症になる前のように家事全般をこなせて元通りになった、すっかり治ったよ！！」と。今では「ス

「パーデイようざん栗崎」の帰りに夫婦二人で買い物を楽しみ、帰宅してから二人で食事の準備を楽しまれるようになったと、報告された時は職員一同大変感激致しました。

③ すぐに興奮され協調性に欠ける利用者様のケース

元農家の利用者様。農園部長に抜擢し、耕し方・植え方・手入れの仕方など、を教えてくださいました。始めのうちは、不機嫌な様子も見えましたが、職員と二人三脚で園芸部長を半年ほど続け、収穫の時には他利用者とも打ち解け、笑顔で収穫を楽しまれていらっしやいました。特に「じゃが芋」の作付には、うねの感覚や高さなど細かな指摘があり、現役当時の記憶が鮮明によみがえるようです。以前に比べ興奮される回数も減ってきています。

最後に・・・

「栗崎名物手打ちうどん・栗崎アグリファーム」を通して、私たち職員は多くの素敵な経験をすることができました。また、認知症ケアとして、回想法・園芸療法・機能訓練・気持ちを穏やかにするなどの効果があります。

農作業・手打ちうどんのレクも利用者様と接するきっかけにすぎません。大切なことは利用者様と同じ目線に立ち、利用者様の生活の質を高めることだと確信しております。他者を思いやり・讃え、残存機能を活かし存在感を認識し自尊心を高めること。当たり前のことですが、多くの方々と農作業・手打ちうどんを通じ、改めて実感しています。家族の方々からも感謝の声が数多く寄せられています。

これからも来苑して頂くことで、利用者様も家族も職員も楽しく、喜びに満ちた笑顔あふれる日々を贈ります。

ここはようざん学校倉賀野教室

～ “ホッ” とする空間作りへの取り組み～

ケアサポートセンターようざん倉賀野
川連 晃子

A 様：“今日は学校お休みですか？”

職員：“今日は 9 時から開講です”

こんな電話のやりとりで始まる一日。ここはようざん学校倉賀野教室。人生経験豊かな人が集まってくる学校。ここで私達職員を“先生”と呼ぶ、ある利用者様への取り組みについて紹介致します。

<利用者様情報>

A 様

昭和 4 年 7 月 5 日生まれ (85 歳)

介護度 1 既往歴 認知症 (平成 19 年ごろ～)

急性膵炎

<生活歴>

神奈川県生まれ。学校卒業後地元の会社に就職。昭和 27 年ごろ結婚。

夫の転勤に伴い高崎に移住。その後専業主婦として過ごす。民生委員を歴任、高齢者大学に通うなど、世話好き・向学心が強い。平成 19 年ごろから認知症症状が出現。昨年末、ご主人が亡くなられる。

<A 様の週間利用予定>

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
休み	通い	通い	訪問	通い	訪問	通い

<利用開始時の A 様の状態>

- ・ご利用日でない日は配食を行なっていますが、ほとんど召し上がらずに、自分で買い物に出かけてしまったり、出前を取られたりしてしまいます。それを当日のうちに食べて頂ければよいのですが、購入したことを忘れてしまい、寿司・惣菜などを常温で保存し、翌日に召し上がられるなどの行為が見られました。
- ・拒否が強く、1 か月に 1,2 度の入浴。
- ・配食時に馴染みの美容室や八百屋へ出かけられ、不在のことが数回ありました。家族としてはいつか帰れなくなるのではと心配されていました。

- ・来所されたと同時に「私はこんなところへ来るような人間ではない」と帰宅願望が強く、帰りたくなると興奮され「一人で歩いて帰れるんだから、開けてちょうだい」とおっしゃり、カバンを振り回すなどの行為が見られました。
- ・ご主人と二人暮らしだったのですが、認知症発症後にご主人が入院したため、そのことを認識できず、自宅にいるものと思うことが多いのですが、その一方で、ひとり暮らしであることを認識していることもあります。昨年12月末のご主人他界後は、ご主人がまだ生きていたかと思っていたり、逆に亡くなったことを実感され涙ぐまれることが多く見られるようになりました。
- ・職員を“先生”と呼び、歌や体操など新たな知識を勉強をしようと思って来所されました。

上記のように、様々な問題があるA様。学校での授業にあたる体操・歌・レクリエーションには積極的に参加され、また馴染みの利用者様との会話を楽しまれています。そこで、A様にとって苦手なことを学校に見立てて、次の取り組みを行ないました。

<1 時間目・入浴>

利用開始当初

職員：「Aさん、お風呂に入りましょう」とお誘いしました。しかし、

A様：「毎晩入っているからいいわ。いつも私は主人と一緒に入っているの。主人に促されてやっと入るんだけどね・・・」

毎回この会話の繰り返しでした。手を変え人を変え・・・、

看護師：「お医者さんから言われています」と言い、

二週間に一度入るか入らないか。ようざん倉賀野では、毎月利用者様の体重測定を行なっています。「あっ！そうだ！！学校と思っているA様、学校って健康診断行きますよね！？試しに、入浴の日を毎月1回の体重測定と見立て、上手く脱衣所に誘導してみてはどうでしょうか」と案が出ました。試に行なってみました。

体重測定後

職員：「A様これから体重測定をしましょう。次はA様の番です。」声掛けするとスムーズに脱衣所へ行かれました。しかし入浴と思ひ、疑い深くなられ、

A様：「みんなはどうしているの??」

職員：「正確な値を出すために、みなさん全部脱いでもらっているんですよ」

するとA様は渋々ではありますが、衣類を脱ぎ始めました。全部脱げばあとは「せっかくなんでさっぱりしましょう」とお風呂場へ誘導。見事に入浴に成功。このケアを職員間で統一することで、それ以降は一度も拒否されることなく入浴されています。

<2 時間目・配食>

A様が訪問の日は配食を行なっています。ようざん（学校）利用時は、ほぼ完食されるのに対して、配食時は食事量を確認すると、1口、2口がやっとです。少しでも召し上がっていただくにはどうしたらいいのか、カンファレンスを行ないました。ようざん（学校）ご利用日は馴染みの利用者様と共に囲む食事、「今日のごはんはおいしいね」などと会話が弾む日々。しかし家では一人ぼっち・・・さみしがり屋なA様にとって、誰かがそばで会話をしながら食べることが、食事摂取量を増やすもっとも有効な手立てではないかと私達は考えました。小規模多機能型のメリットを活かし、訪問（配食）の際30分ではありますが職員もお弁当をA様のお宅へ持参し、一緒に食べる時間を設けました。最初のうちは「あとで食べるからいいわ」などとおっしゃっていたA様でしたが、「あら、あなたも一緒に食べて下さるの」と自ら飲み物を用意してくださり、一緒に食べるようになりました。表情も明るくなり、たとえ短い時間でも、寂しさを紛らわすことのお役に立てて嬉しく思います。

<3 時間目・オレンジボランティアの活用>

今まで述べたように寂しがり屋なA様、利用のない日は様々な所へ出掛けてしまっている様子がうかがえました。そこで、ご家族に提案し、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、オレンジボランティア、ご本人、娘さん、ようざんで話し合い、ご利用日でない日に、オレンジボランティアの方々にA様のお宅に訪問（安否確認）して頂いています。「主人もいないから・・・」と寂しさのあまり涙ぐまれる日があるそうです。ここでも短い時間ですが、ボランティアの方々がお話を聞いてさしあげると、表情も豊かになるようです。

<4 時間目・ラミネートの活用>

現在一人暮らしであるA様、お迎えに行くと、「あら今日は行く日なの？」と準備をしていない日がしばしば。そこで、A様に利用日がわかりやすい方法はないかと考えました。拡大したカレンダーを貼ってみる・そこに日にちに線を引く・電話の近くにようざんの電話番号を書いたものを貼っておく等試行錯誤をした結果、「A様、〇〇曜日の学校は9時からです。お迎えに伺います。」休みの日は「〇〇曜日の学校はお休みです」といったラミネートを作成することにしました。

すると、まだ日にちの認識は理解できていないもののお迎え・訪問の際はしっかり自宅にいて下さるようになりました。

<放課後・まとめ・考察>

認知症になると、新しい記憶を覚えることが難しくなります。しかしその人が輝いていた時代の事はよく覚えており、また、楽しい・悲しい・寂しいといった感情は残ると言われ

ています。今回取り上げたA様は、民生委員、高齢者大学に通うなど、人の世話や学ぶことが好きな方だったとのこと。そのため、まだまだ学びたいことが多いA様にとってここは「ようざん学校倉賀野教室」です。

今回取り上げた利用者様はほんの一例です。ようざんを学校と思ったり、病院と思ったり、考え方は十人十色です。その利用者様にとって、馴染みの環境に合わせた対応を行うことで、“ホッ”とできる時間・空間を過ごして頂く、ようざん倉賀野自体が私達の自慢です。

「笑顔の溢れる街の名は ぽから」

デイサービスぽから

北沢 奈美子

① はじめに

皆さんは「ぽから」って聞くと何処の事業所の事を思い浮かべますか？

毎日の関わりがあり、美味しい食事を届けてくれる配食センターぽからでしょうか？

それとも毎回事例発表会で強い印象を残す訪問介護ぽからでしょうか？

なかなか強い特色を持った事業所の中で目立ちませんが「ぽから」にはいつも明るく元気な職員が活躍するデイサービスがあります。本日はそんなデイサービスぽからについて紹介していきたいと思います。

② 事業所説明

【名前の由来について】

取り組みについてお話する前に、「ぽから」の名前の由来について紹介したいと思います。

「ようざん」は上杉鷹山から名前がとられているのは有名な話ですよ。

では、「ぽから」って・・・？人の名前？どんな意味でしょうか？ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、答えは・・・。

ネパールにある避暑地の都市名との事です、日本で言えば軽井沢みたいなものだと思って頂ければと思います。

ぽからの利用者様に元登山者の方がいてネパールのぽからに行った事があるとの事で驚きました。お金の無い若い登山者達の中継地点だそうです。こういった出会いがあるのもこの仕事の楽しさのひとつではないでしょうか。

では、いよいよ本題に入ります。

③ デイサービスぽからの特色

デイサービスぽからでは7つの特色というタイトルで独自のチラシを作り、ケアマネージャーの方や地域の方にポスティングをして宣伝しています。

時間の関係上全部は紹介できないのでいくつか紹介していきたいと思います。

特色①【デイサービスで野菜が買える】

月、水、金の朝9時から地元で育った新鮮野菜が100円で買えます。

・野菜販売によく来られていた方が、他のデイサービスが続かず、ぽからなら野菜を買い

に行っていて知っているという事でデイサービス利用に繋がった事がありました。今でもその利用者様はデイサービス利用以外の野菜販売の日は自転車で野菜を買いに来て頂けています。

特色2【お弁当を持って帰れる】

15時以降の帰りの方であれば配食センターからの皆様ご協力のもと、昼食同様、高崎1安いといっても過言ではない1食200円でお弁当をお持ち帰り頂けます。

配偶者の方の分までお持ち帰り可能です。

デイサービスばかりを利用されている利用者様の中には独居の方や、高齢の夫婦だけで生活されている方も多くいらっしゃるため、とても重宝されているサービスの1つです。

特色3【環境を活かした送迎】

通所介護として連れ出し時に拒否があった場合、その方にあった目的付けをして、その方が行動するきっかけを作りデイサービスに来て頂くケースというのはよくありますが、初めて利用される方にとって初回利用は心細くハードルが高いようで、なかなか上手い出来ない事もあります。

そんな時、強力助人に力を貸してもらいます。

訪問介護です、もちろん訪問介護を利用されている方に限りませんが、もともと併設されている事で訪問と通所のサービスを一緒に使われている方も多く、「いつも来ているヘルパーの〇〇さんもいますよ。」と話題に名前を出すだけでも安心して頂けた事や、一緒に訪問介護の職員が来てくれた事でその日のデイサービスに来て頂けたこともありました。

環境に助けてもらうケースも日々あるので、とても助かっています。

④ デイサービスばかりの取り組み 3大レクリエーション

【1】 通貨事業 和紙ちぎり絵教室

和紙を使った、本格的なちぎり絵教室です。

細かい作業は脳の活性化、指先の訓練にも良いとされています。

芸術的作品は感性を刺激し心のケアにもなります。皆様ご自身で作った作品を家に飾って頂けていてとても好評です。

【2】 14mチャレンジ

ルールは至ってシンプル、片道14mの廊下往復をする歩行練習です。

何メートル歩いても参加して頂くとポイントカードにシールで1日1つ貼る事が出来ます。

シールもご自分で選び、ポイントを貯めると賞品をプレゼント。

14mチャレンジの効果は未知数ですが、「もっと運動がしたい。」「リハビリに特化した所に行きます。」と言って解約される利用者様はいなくなりました。

【3】月1選手権

1ヶ月かけて月替わりの種目を競う大会です。一ヶ月の間、何度でも挑戦でき、暫定記録も掲示してあるので自己新記録の更新を目指される方や「負けたくない！やるからには絶対優勝するわ！」と闘争心をむき出しにして参加される方もいます。

月初めは大会委員長による、先月の3位までの方に賞状と賞品を授与する表彰式が行われ優勝者の方は額に飾り殿堂入りします。

⑤ 第1回ぽからレクリエーション総選挙

先日、日々行われているレクリエーションについて利用者様の嗜好を知ることを目的に全利用者様にアンケートを取りました。

好みはそれぞれなので順位に良い悪いはありませんが、せつかく集計したのでデイサービスぽからでのレクリエーションの上位3位を発表したいと思います。

皆様も予想しながらご覧ください。

<ノミネートレクリエーション>は抄録をご覧ください。それでは順位発表です。

※(カラオケ大会、14mチャレンジ、月1選手権、和紙ちぎり絵教室、慰問、ドライブ、室内ゲーム、制作、その他)

第3位

第2位

1位発表の前に要望、少数意見も幾つか紹介したいと思います。

第1位

⑥ 終わりに

今回、利用者様だけでなく職員全員にも、ぽからの売りや気を付けている事に関してアンケートをとった所、多少の言い回しが違ったとしても、利用者様本意に、明るく楽しく過ごしてもらおうという思いは全員一緒でした。

ぽからに溢れる笑顔は職員一人一人の目配り、気配り、思いやりに裏付けされたものだと再認識する機会ともなりました。

日々、この仕事に関わる以上、どうしたらお客様に喜んでもらえるだろうと考え、ネタが尽きる事もありますが、皆で協力し絞り出したレクリエーションやサービスで盛り上げこれからもぽからに笑顔が溢れれば幸いです。

ぽからの事を色々ご紹介させて頂きましたが、本日は「笑顔溢れる街 ぽから」の職員の取り組みと名前の由来だけでも覚えて帰って頂ければと思います。

御静聴ありがとうございました。

チームワークの先にあるたくさんの笑顔

ケアサポートセンターようざん栗崎

関 美沙紀

みなさんケアサポートセンターようざん栗崎ってどんな所にあるかご存じですか？

田んぼや畑に囲まれた、とてものどかな場所で私たちは日々過ごしています。

今回の事例発表のお題、「事業所自慢」！

まず、私達が生活している環境に恵まれていると思いました。

車通りも少なく、散歩中にはお花が咲いていたり、畑に野菜がなっているので、あれはなんですかね〜？と散歩しながらクイズを出しデュアルタスクにも繋がります。

でも正直事業所自慢とはどのようにしたらいいのか悩みました。

そこで、せっかくなので一番栗崎の事を分かっている職員にも聞いてみようと思い

「栗崎の良いところってどこだと思いますか？」とアンケートを取ってみましたので、アンケート結果を発表していきたいと思います。

栗崎には明るく、利用者思いの職員が沢山いますので職員紹介も混ぜて発表させていただきます。

ケアサポートセンターようざん栗崎の良いところ→①レクが充実

ケアサポートセンターようざん栗崎では、レクのそれぞれの担当を決め午前1回・午後2回と3部制にしています。

(図①参照)

【図①】

レクリエーション	レクリエーションの内容	役割担当者
朝のレク	歌・体操をメイン	当日のリーダー
午後レク (A)	ADLの高い人を対象とした 担当職員が考えたお任せレク	入浴介助 (中)
午後レク (B)	全員で行うメインのレク	遅日勤

職員の個性を活かしたレクや、それぞれの利用者様に合わせた個別レクが出来るように努めています。介護度平均3.24なので、介護5の利用者様でもできるようなレクや、リハビリを兼ねたアクティブなレクにも力を入れています。(図②参照)

【図②】

《レクリエーション担当者 一覧表》

係り	担当者			内容
ようざん通貨	田邊	新井	和田	ようざん通貨を使用しての企画・管理
行事	田邊	下川	小笠原	行事の企画、運営、調整（地域密着担当-下川）
慰問	関	新井	下川	慰問の企画、運営、調整
外出・外食	和田	関		外出の企画、視察、調整
写真	田邊	関	新井	写真の管理
室内レク	小笠原	和田		室内レクの企画
制作	北爪	青木		制作の企画と実行
レクカレンダー	関	田邊		レクカレンダーのまとめと作成
誕生会・おやつ	佐々木	青木	湯浅	誕生会、おやつレクの企画、調整

毎月新しいレクが増えていく中でも大人気の一部のレクを紹介します。

*巻き巻きゲーム

*ロープでものまね（動画）

このゲームの発案者和田さんです。

またようざん通貨レクではお馴染みの「ダンスパーティー」や「つもりツアー」も大人気です。ダンスパーティーは、2カ月に一度行われます。

職員のギター演奏に合わせ、みんなで踊ったり、マンネリ化しないように季節に合わせた職員の出し物も披露します。車イスの方も上手に手を動かして踊ります。

ダンスは若返り効果もあると言われていています。ダンスパーティーをやろうと思ったきっかけでもある利用者様の K 様。毎回ダンスパーティーをととても楽しみにされており 85 歳にしてこんなに美人でお若いのです。

またダンスパーティーでも職員大活躍です。（北爪さん、湯浅さん）

また、栗崎には以前添乗員をしていた職員がいます。（田邊さん）

そこで思いついたイベント！その名も「つもりツアー」！観光地の写真や資料を見せながら、観光地の話をしたり案内をして、中々旅行に行けないみなさまに旅行に行った気分を味わってもらおう！というイベントです。北海道ツアー、沖縄ツアー、ハワイツアーが行われました。

→②おいしいおやつレク

近くの市場や、目の前に鈴木農園さんの畑がある為、野菜・果物の戴き物が多いのです。

その為美味しいおやつ作りができます。その日の内に利用者様と一緒に調理して皆で美味しくいただきます。（下川さん）

(新井さん) ケアサポートセンターようざん栗崎の良いところ→③地域との交流が図られている

小規模多機能は地域密着型サービスです。利用者様が住み慣れた地域で生活を継続できるように支援すること。

近所の方も多いため地域行事に参加したり、地域交流に励んでいます。

- ・毎年岩鼻小学校5年生が体験学習に来て、子供達が出し物を披露したり、お手玉やあやとり等一緒に行かない利用者様と小学生との交流を深めます。また村田係長が小学校に行き認知症について子供たちに教えています。「中々おじいちゃん、おばあちゃんとの交流が少ない小学生にとって、とても良い機会です。」と先生からも喜んで頂いています。
- ・岩鼻小のバザーにも開設当時から毎年参加しています。利用者様と一緒に雑巾を縫ってバザーに寄付します。その雑巾が100円で販売されていたのには驚きでした。
- ・運動会にも毎年招待頂き、お孫さんの運動会を見に行けてうれしいと利用者様も大喜びです
- ・岩鼻小学校教頭先生も慰問にきて下さいます。
- ・健康福祉大も近い為、大学生の空手部が慰問に来てくれたり、メナードさんとの共同でお化粧品にも来て下さいました。又、看護学生も今年実習に来ています。
- ・防災訓練にも地域の方々が毎回5～6人必ず参加して下さいます。今では職員より誘導が上手いほどです。

ケアサポートセンターようざん栗崎のいいところ→④チームワークがいい

これはアンケート結果の中でも一番多い回答でした。

- ・職員それぞれが思ったことを言える環境
- ・お互いに気を使える環境
- ・職員同士仲が良い為、わからないことも聞きやすい
- ・助け合いの気持ちがたくさんある
- ・職員それぞれが思いやりがあり、行動力がある
- ・看護師との連携がとれている

↓↓↓結果

職員同士で情報共有ができている為利用者様に対してのケアの統一に繋がっていると考えます。

どの世界でも一緒だとは思いますが、介護の仕事は一人で成り立つものではありません。複数の介護職員、看護師、ケアマネージャー、その他専門職等それぞれが大切な役割を担っています。それぞれが最大に役割を発揮して、お互いに高め合い、チームの力で利用者様を支えていきます。

私達が良いチームケアができるのはこの方々の指導があるからだと思います。

まずは我らが主任 只木さん。

まさに介護職が天職！誰にでも裏表なく、平等に接しいつも親身になって私達の相談にものってくださいます。

そんな只木主任のアンケート結果

栗崎の良いところはどこですか？→管理者がいい

紹介が遅れました。

ケアサポートセンターようざん栗崎の所長であり、ようざんの係長でもある村田係長です。いつも私達を厳しく指導して下さいます。厳しさの中にも、優しさがあり栗崎の母的存在です。利用者、職員への思いやりが一番です。

ぬくもりのあるケアをしてください。

毎日職員に言う言葉です。

ケアサポートセンターようざん栗崎のスローガンにもなっています。

「ぬくもり」

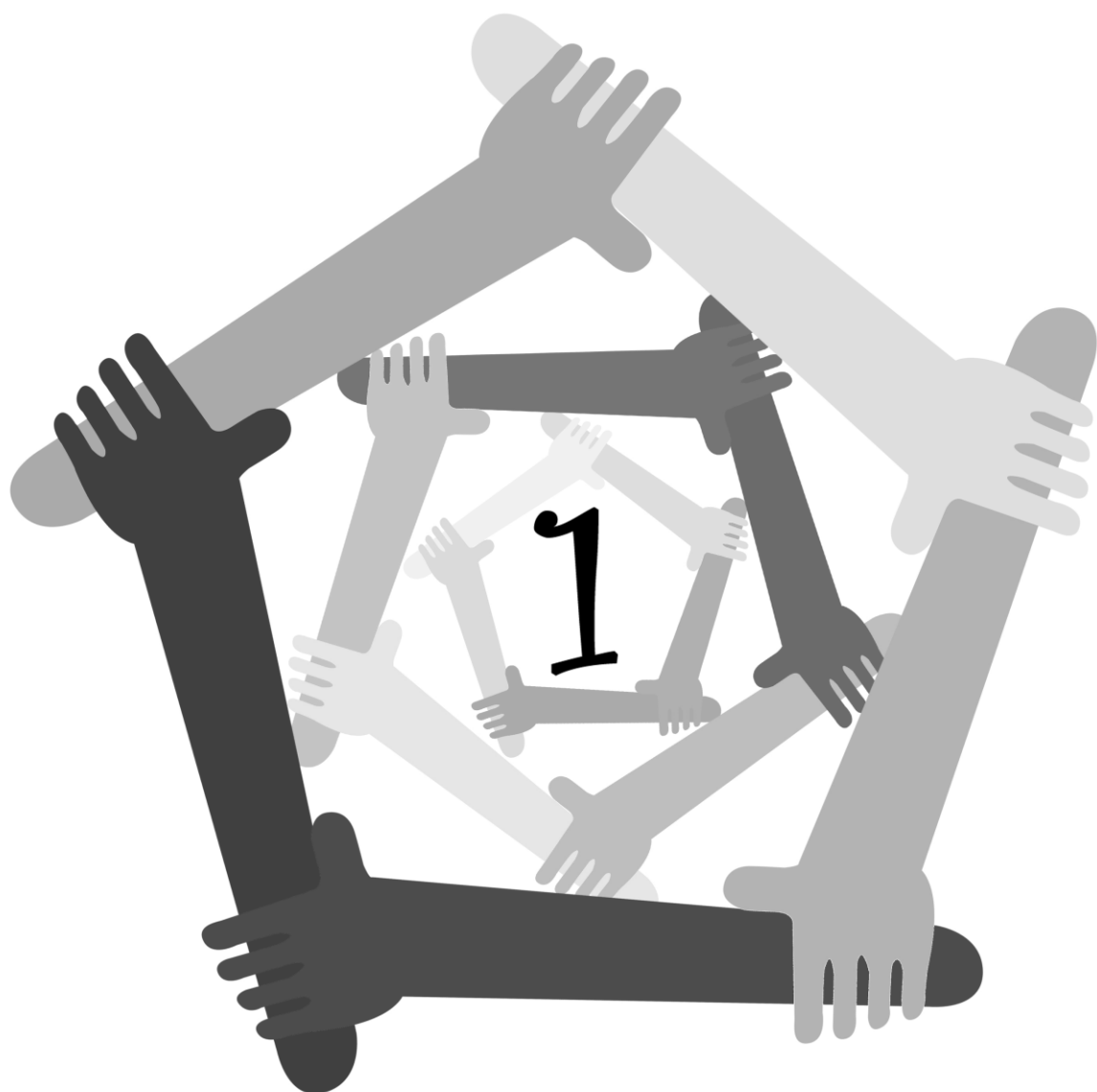
これからも利用者様と職員がともに喜び、優しさ、思いやりを心と心で、肌と肌で感じられるケアを実践していきたいと思います。

ようざん栗崎には今日も笑顔がいっぱいです。

ご清聴ありがとうございました。

第6回ようざん事例発表会

「事業所自慢」



平成26年7月28日

第6回ようざん事例発表会 その1

～日々最高の「楽しさ」と「おもてなし」～

デイサービスようざん並榎 大澤浩芳 p.2

「ぐるりんに乗って、どこまでも、どこまでも」 ドライブミニツアーと社会資源の活用

スーパーデイようざん飯塚 榊田 敏明 p.6

信頼から生まれるチームワーク

居宅介護支援事業所ようざん 清水 克哉 p.9

～レクリエーション、個性を活かして～

ケアサポートセンターようざん並榎 矢田裕司 p.12

ショートステイようざん並榎スタッフは勉強家です。

ショートステイようざん並榎はピック病の介護が得意です。

ショートステイようざん並榎 堀江 一彦 p.14

グループホームようざんの「いいね！」

グループホームようざん 新井 真美 p.17

あなたひとりだけのために

スーパーデイようざん双葉 榊田千恵子 p.20

「ここで寝るんだあ～」

～いつまでも二人で、サテライトを利用しながら自宅で過ごす～

ケアサポートセンターようざん中居 関 ひかり p.23

「地域交流」と「異業種との連携」

ケアサポートセンターようざん双葉 小坂橋貴之 p.27

利用者様から学ぶこと

訪問介護 ぽから 佐藤 靖典 p.30

～日々最高の「楽しさ」と「おもてなし」～

デイサービスようざん並榎

大澤浩芳

【はじめに】

現在高崎市にはデイサービスが何事業所あるかご存知でしょうか？なんと150もの事業所があるのです。数あるデイサービスの中で、利用者様から選ばれ、信頼されるデイサービスとなる為には、サービスの中での付加価値を付けて他事業所との差別化を図っていかなくては生き残れません。私達に出来る付加価値とは何かを追求した結果、「楽しさ」と「おもてなし」この2つの重要性に気付きました。デイサービスで介護職が介護するだけではプロの仕事とは言えません。その上の、期待を超えるサービスを提供してこそプロフェッショナルと言えます。それでは、デイサービス並榎のプロフェッショナルな「楽しさ」と「おもてなし」をご紹介致します。

【プロフェッショナル1「楽しさ」】

デイサービスようざん並榎では、要支援1～要介護5までの介護認定を受けた方々がご利用されています。利用者様の状態は様々であり、麻痺のある人、難聴の人、認知症を患っている人、基礎体力のある人、ない人など、千差万別です。また、個人の持つ性格「負けず嫌い」「平和主義」なども、レクリエーションを行う上で無視はできない大切な情報です。さらに、利用者の状態は日によって違いますので、来所されてからの様子などすべてがレクリエーションを楽しく安全に行うための重要な情報となるのです。私達デイサービスようざん並榎の職員は、その方々全てに、少しでも多くの喜びと楽しさを提供できるように日々努力を惜しまずレクリエーションを実践しています。まさにこの努力が、レクリエーションのプロフェッショナルであるプライドです。

これから私達の追求した自慢のレクリエーションを盛り上げる為の工夫やこだわりを紹介していきます。

☆楽しさを引き出す仕掛け

①予告

- ・入浴中や送迎中に声掛けによる予告を行い気分の高揚を図る。
- ・環境作り(ポスターによる宣伝、ホールの飾り付け等)

②小道具

レクリエーションに合ったBGMを流す。

職員と参加者の多種多彩のメイクやコスチューム

③面白いネーミング

- ・レクリエーションに付ける題名

④通貨の活用

- ・勝利チームや高得点を出した方に配布
- ・特別賞(プロ目賞やラッキー7賞など)を出した方に配布

下の表は先月 H26年6月に実施したレクリエーション一覧です。

デイサービスようざん並複 6月 レクリエーション予定表						
時間割振	月 2	火 3	水 4	木 5	金 6	土 7
午前	タオル体操	筒体操	輪投げの輪体操	新聞紙体操	お手玉体操	旗揚げ体操
午後	風船ゴルフ	狙え! ストラクナイン	DVD観賞	慰問	ブーメランゲーム	けつとばしカーリング
15:30以降	歌レク・歌詞当てゲーム	人生ゲーム	ことわざジェスチャー	リアル野球盤	フィーリングゲーム	手さぐりゲーム
午前	空き缶体操	新聞紙体操	旗揚げ体操	タオル体操	輪投げの輪体操	お手玉体操
午後	ハンド&キックボーリング	テーブルホッケー	タイムセール詰め放題	けつとばしカーリング	小運動会	夏のようざんサッカーCUP
15:30以降	コップシューティング	何が通ったかな?	女優さんゲーム	制作	歌レク・歌詞当てゲーム	カラオケ
午前	筒体操	お手玉体操	空き缶体操	旗揚げ体操	新聞紙体操	タオル体操
午後	アイスカーリング	バランスゲーム	ようざん商店	避難訓練	キックボーリング	銭形平次ゲーム
15:30以降	連想ゲーム	制作	ゲートボール	歌レク・歌詞当てゲーム	叩いてかぶって(職員)	テーブルゲーム
午前	お手玉体操	旗揚げ体操	新聞紙体操	筒体操	空き缶体操	輪投げの輪体操
午後	慰問	とばせ!! イス押しゲーム	スーパーボール飛ばし	慰問	愛のぐらぐら橋渡しゲーム	おかみさんリレー
15:30以降	尻相撲(職員)	歌レク・歌詞当てゲーム	テーブルホッケー	色分けゲーム	ピンポン玉入れ	制作
午前	新聞紙体操					
午後	紙飛行機ゲーム					
15:30以降	三角積み					

上記にある①～④の事を活用したレクリエーションを3つ紹介したいと思います。

- ・おかみさんリレー・・・2 チームに別れておたまやカップを使用し隣に物を渡してどちらが早いかを競うゲーム
- ・銭形平次ゲーム・・・指定されたお手玉の個数と大型の手作り和同開珎を投げてもらい泥棒を倒すゲーム
- ・紙飛行機ゲーム・・・空港をいくつか作り指定された場所から紙飛行機を飛ばして何機着陸することができるかを競うゲーム

【プロフェッショナルその2「おもてなし」】

「おもてなし」は日本人の心・・・皆さんも一回は聞いたことあるのではないのでしょうか? 「おもてなし」と似た意味で「ホスピタリティ」があります。「ホスピタリティ」の意味には“喜びの共有”があり、これは介護職で例えるならば利用者と職員の間にも生まれるものではないのでしょうか? 私達の仕事は

「究極のサービス業」であると同時に「究極のホスピタリティ業」です。ご利用者の希望や思い、好みは千差万別で常に接遇に関しても臨機応変にその人ごとに対応しなければいけません。

それでは、実際に行っているプロフェッショナルな「おもてなし」。デイサービスようざん並榎の心を紹介します。

☆プロフェッショナルの「おもてなし」

①ドリンクメニュー表

利用者様が飲みたいときに飲みたいものを提供できるよう配置

※全事業所に徹底された職員紹介入りのドリンクメニュー表はデイサービスから生み出されたアイデアです

②イベント湯

・炭湯、米ぬか湯、ハーブ湯、桃の葉、ひのき湯、花湯、ゆず湯、薬湯等の季節を感じられるお風呂の提供

・各イベント湯の際、効能の掲示

③慰問の方へのおもてなし術

・お礼の手紙や写真をプレゼント

④言葉づかい

・吉岡所長直々の丁寧な言葉遣いの徹底

⑤挨拶

・お見送りは全員で最敬礼

上記の①～⑤では必ず職員の最高の笑顔付き

【最後に】

今回紹介させて頂いたことはほんの一部に過ぎません。レクリエーションという言葉は世間では「遊び」というイメージが強いかもしれませんが、実は人の人生を大きく変える事の出来る可能性を持っている事に気付いた事例があります。

利用者の A さん97歳は、契約時に死ぬことばかり考え「そんな施設にお世話になるくらいなら死んだ方がましだ」「自分がみじめで情けない」などの悲観的な発言が多く、デイサービスを利用することに強い抵抗が見られました。そんな A さんがデイサービスのレクリエーションを体験された後、満面の笑みで

「こないいい所だと思わなかった」「生きていて本当に良かった」

「嫁が私を厄介者扱いして施設に追いやられたと思ったけど、こんな面白い場所を見つけてくれた嫁に感謝しなきゃ」

と、手を合わせ何度も拝んでくださいました。畑仕事が生きがいであった A さんが、今はそれ以上の生きがいを見つけました。現在では週2回から週5回に利用が増え、かけがえのない仲間と最高の

時間を過ごされています。

私達の仕事はすべての利用者さんに満足して頂くことです。大切な利用者さんを楽しく幸せな気持ちにするためには「楽しさ」と「おもてなし」が全職員に徹底していなければならないので、よりチームワークを高めています。そのための努力は惜しみません。

「並榎のデイサービスに通えて最高に楽しくて幸せだ」と感じていただける、その瞬間の為に、私たちは全力で頑張れるのです。

「ぐるりんに乗って、どこまでも、どこまでも」

スーパーデイようざん飯塚

榎田 敏明

はじめに

2年前、スーパーデイようざん飯塚では、人事の大異動があり、新管理者のもと新人職員が多く、うまく利用者様に喜んで頂けるレクリエーションがなかなか出来なかった。また利用者様の帰宅願望も多く、対応に悪戦苦闘し、ドライブレクリエーションなどをほぼ毎日行い対応していた。

ドライブレクリエーションを続けていく中で、利用者様の表情が良くなっていき、会話が弾むようになり、本当に楽しんで頂いていることが分かった。スーパーデイようざん飯塚の外出レクリエーションの展開についてこれから紹介する。

経緯・経過

ドライブレクリエーションを繰り返して行くうちに、高崎市内の名所や旧跡、トイレの有無が確認できるようになる。季節に応じた花や木々なども少しずつ分かるようになり、ドライブ場所の範囲を広げる事が出来る。また、名所めぐりや桜ツアー、梨狩りなどの企画も順次取り入れる。人と接する事や自然とふれあう事で、脳の活性化をはかり、身体機能の低下予防にも繋がるよう、車から降りて行動できるように計画を立てる。認知症の方の心と体を刺激する「ミニツアー」へと移行していく。また、様々なお勧めドライブ先をメニュー化し、利用者様にいきたい場所を選んで頂きながら実行していく。

目的

このドライブミニツアーを行っていく中で、違ったアプローチの外出レクが出来るのではないかとこの意見が出てきた。適切な支援があればバスや電車などを使って、利用者様の思い出のある場所に行けるのではないかと話し合った。スーパーデイようざん飯塚では市内循環バスの「ぐるりん」を使って、縁のある所に出かける計画をたてる。その事によって利用者様の若かった時の記憶などを思い出して頂く。

取り組み内容

① 象利用者様

生活の中でバスや電車などの利用の有無、過去に旅行など良くされていたかなど情報を収集し利用者様2名をお選びする。

A様(女性): 上信電鉄の事務に勤めていた時期がありバスにも縁がある。

B様(女性): 昔から旅行が好きで良く出掛けていた。

②ぐるりんバスルート選定

対象利用者様をアセスメントしていく中で、共に高崎の街中に思い出があることが分かる。A様はご結婚後高崎に移って自営業を営み、取引をしている銀行や業者との間を行き来していた。また高崎駅も良く利用されていた。ぐるりんのお話をしてみると、「いつも、ここに来て楽しい所に連れて行ってもらえるけど、バスに乗るのなんて何十年ぶりだろう。楽しみだねえ」と心待ちにされている。

B様は高崎駅近くの本屋を営んでおり、「昔は高崎の第十五連隊に本などを納めていたのよ」とよく話されている。また、スズランや高島屋など良く買い物に出かけている。駅周辺には詳しい利用者様である。ぐるりんの話をしてみると、「高校に通っていたころは、仲良し 3 人娘で先生に見つからない様に良く行っていた喫茶店があったのよ。どうなっているのかしらねえ。楽しみだわ」と期待されている。

そこで2人の共通点である街中を通る「都心環状線」を選択する。高崎西口を出発しモントレー前→高島屋北入口→慈光通り→大手前連雀町→スズラン前→音楽センター前→市役所→高崎公園前→高崎総合医療センター→もてなし広場前→総合保健センター・中央図書館→NTT前→東京電力・スズラン入口→本店タカハシ前→白銀町→通町→旭町→高島屋前→八島町→高崎駅西口に戻るルートである。

③日程及び時間設定

バス会社に連絡し、一般の方々のご迷惑にならない様に空いている時間帯を伺った。対象利用者様お二人の来所日を踏まえ日曜日の13時20分発とし、当日の便の運転手に前もって連絡してもらうことになった。利用者様の体力や安全を考え、バスの停留所までは車での送迎とする。

バスに乗られた時のご様子

A様:お迎えに伺うとお出かけ用の靴を履いておられ、お洋服もおしゃれして待っていて下さった。出発点である高崎駅西口のバス停に着き、バスを待つ間近隣の建物や道などのぞき込み若い時と違う高崎駅周辺の様子を物珍しく眺めている。駅前にある証券会社の入口が反対側にあったなど昔を思い出されている様子である。バスに乗る時も車内を見渡しながらか乗られている。出発して高島屋前まで行くと「ここには銀行があったはず。」「ここには～がある。」「ここはこうなっちゃんだ。」などと話される。また、ビルの高さにも驚かれ、「私たちがいたころはせいぜい3階建てぐらいだったのにねえ」としきりに感心されていた。

B様:バス停のベンチに座り建物やその周囲を見渡し、高崎駅の変わり様にびっくりされている。バスに乗り高島屋を通過すると「私はいつも高島屋でお洋服を買ったり、美味しいものをお取り寄せしたりしていたのよ」と話されていたが、だんだん言葉数が少なくなっている。伺ってみると「高崎は若い頃から比べるとだいぶ変わったけど、街中が寂れちゃったよね。人通りも少なくなったし。商店街もシャッターが閉まっている店が多く本当にさびしいよね」とおっしゃった。行きつけの喫茶店前を通り過ぎると「まだやってたのね」と笑顔を取り戻し、音楽センターを通過すると「ここでよく

長唄やコーラスの発表会をしたのよ。懐かしいわねえ」と思い出を話して下さった。

結果・考察

社会資源を活用していく中で、バス会社の方と連携が取れたことにより、無事ぐるりんバスツアーを行うことが出来た。今回は ADL が比較的高い人を選ばせて頂いたが、参加できなかった方々にもこのような外出レクリエーションを展開する自信に繋がった。

利用者様にとっては自家用車とは違いバスの中は広く開放感があり窓も大きいので、お二人とも久しぶりのバスから見る風景を新鮮に感じていただいていた様子であった。そして、昔の事を懐かしみながらも今の高崎市の様子に驚かれたようであった。

A様は、普段外出しづらい状況もあり、「バスに乗せてもらえるなんて」と大変喜ばれていた。B様は「私がいると乗り降りの邪魔になっちゃうかしら」と周りを気遣う様子が有ったり、高崎の変容に驚きや寂しさを感じたりしながらも、青春時代を懐かしがっておられた。利用者様それぞれの考えや反応があり、今後個別ケアをしていく中での職員全体の気付きとなった。

終わりに

今回、アセスメントを深く取り、利用者様の思いや歩まれてきた人生などがわかり、思い出に沿ったコース設定ができた。また、久しぶりにバスに乗るという共通体験で、利用者様や職員も会話が弾み、お互いが近く感じられたり、新しい一面を発見したりすることが出来た。社会資源を活用することで、職員の一步上のレクリエーションに対する自信につながり、より利用者様本位のケアが出来るのではと感じた。

利用者様は「自分でできる事は自分でしたい」「こういうことがしてみたい」など思っているが、なかなかできないこともある。その思いをくみ取り、適切な支援を行う事で利用者様が「できた」「よかった」と満足が得られるようにしていきたい。それを、継続的に行うためにスーパーデイようざん飯塚はどこまでも、どこまでも邁進していく。

信頼から生まれるチームワーク

居宅介護支援事業所ようざん

清水 克哉

はじめに

居宅介護支援事業所とは？

ケアマネージャー(介護支援専門員)を配置している事業者です。要介護認定の申請代行やケアプランの作成を依頼するときの窓口となり、サービス事業者との連絡・調整をします。

ようざんの居宅介護支援事業所は、現在9名の介護支援専門員がいます。一人のケアマネが要介護者35名。要支援者8名を担当できます。ケアマネが個々に担当ケースを受け持つため、担当のケアマネがそれぞれの家庭を訪問して相談を受けます。時には処遇困難なケースもあり、それぞれに悩みを抱えてしまうこともあります。

居宅ようざんではケアマネが一人で悩まないように週1回定期的に全員で処遇困難ケースに対しての具体的な対応の検討をしています。これが事例検討会です。ここでチームワークが生かされます。悩みや対応の仕方をチーム全体で考え、状況を共有しているため、個々の不安や悩みを一人で抱え込まずに業務に当たれます。悩みや不安があればみんなに聞いてみんなで考える。分からなかったり、対応に困ったらみんなに聞く、ということが当たり前のようにできています。対応が困難であれば複数のケアマネが対応するケースもあります。

また、特定事業所加算を算定しています。週に1回、会議の時間を設けています。過去に取り扱ったケースの見直しや地域における社会資源、保険や医療に関する情報、ケアマネジメントにおける技術等の意見交換や情報を共有し、知識や技術の向上を図っています。

そんな中で、検討した事例を一つと居宅のメンバーを紹介します。

(事例)

58歳の女性で10代の頃に統合失調症を発症し、現在は同居している長男が介護をしています。長男は介護のためにきちんとした仕事に就けず、派遣社員として働いています。日常的に幻視や妄想があり、同居している家族とも喧嘩が絶えない状況の中で長男の収入が少ないため、十分なサービスの利用ができず、精神科で頻繁に薬を変えたり、精神安定を図る注射を打つなどの処置で何とか自宅で看ている状況でした。

ショートステイや施設入所、入院を提案しても「お金がないのでできない」と必要なサービスが利用できず、ケアマネもどういサービスを組み入れていけばいいのか悩み、事例検討会で話し合いました。

『セカンドオピニオンの提案・専門病院の受診、紹介・生活保護の申請・精神保健福祉士を入れた会議を開催し、医療との連携を取る。本人の生活リズムを整える工夫・障害者年金の申請』等の意見が出されました。それをもとに長男と相談し、「内服薬の見直しのための入院」「退院後はショ

ートステイを利用する」ことを目標にして、障害者年金の手続きを行うことにしました。

障害者年金は初診日まで遡らなくてはならず、40年以上前に診察した医師はすでに他界。調べてみると、十数年前にも障害者年金の手続きを母親がしていましたが、必要書類を集めるのに苦労し、途中で断念していたことが分かりました。

主治医や病院SWと連絡を取り合い、4カ月程かけて必要書類を集め、障害者年金1級を取得できました。

年間約98万円の年金がもらえ、医療費も免除してもらえるようになりました。長男と相談して決めた「内服薬の見直しのための入院」ができるために病院SWと相談し、2か月間入院。現在は退院し、長男が望んでいたショートステイが利用できるようになりました。

事例検討会で話し合うことで自分が気づけなかったこと、知らなかったことが発見でき、様々な方法で在宅生活が支えられることに気づくことができた事例です。

居宅のメンバーをご紹介します。

沼澤文子・・・忙しくても、すぐに話を聞いてくれるみんなの「よろず相談所」です。信頼度抜群です。

内田昌宏・・・わからない事は何でも丁寧におしえてくれます。冷静な判断ができ頼れる存在です。困った時の内田さんです。

品田一代・・・あったかい人柄で皆を見守ってくれています。言葉的確で面倒見の良いおばちゃんです。お花が大好きで毎日の水くれをかかしません。頼れる存在です。

清水克哉・・・その日の仕事はその日のうちに終わらせます。ファイルの整理は1番です。困難なケースも動じません。

廣井幸恵・・・情に厚く常に利用者サイドにたってケアマネジメントをしています。利用者さん一人一人にとっても丁寧に関わっていて正義感が強いです。利用者の1番の味方です。

阿部あき江・・・仕事に一生懸命に取り組んで、明るく元気で社交的。よく気が付いて、いつの間にか何でもやってくれています。気が利いてしっかり者です。

大坂三枝子・・・穏やかでやさしい性格です。得意のトールペイントで、本部玄関を華やかに飾っています。ほんわか天然で場を和ませてくれています。困難なケースも笑顔でかわします。

田子早希恵・・・現場での経験を生かして素敵なケアマネになる予感あり。ただいま急成長中です。期待の新人です。

谷崎敏江・・・何でも知っていて、知識の引き出し豊富です。何を聞いても、とても優しく丁寧に教えてくれます。グループホームのケアマネです。

まとめ

今回「自慢できること」とお題を頂き居宅支援事業所ようざんで一番自慢できることは何かと皆で考えました。メンバー全員一致で「チームワークのよさ」と声が上がりました。なぜだろう？考えた結

果、お互いがスムーズに仕事ができるように配慮しています。当たり前のことですがお互いを信頼し合っています。困ったとき気軽に意見が聞ける関係が出来ています。日頃から何でも言い合える関係を築いている。

ケアマネの仕事は社会福祉関係 医療福祉関係 地域のサービス また各種法律の知識が必要になります。そんな中メンバー9人の知識と知恵 経験がものを言います。われわれメンバーは利用者のため、仲間のため、出し惜しみ無くそれらを発揮し、日々研鑽につとめています。ようざん居宅は一人の利用者を9人全員で支えています。

時々事業所に訪問しています。ご存知ない方がいらっしゃるとおもいます。「あの人誰、なんだか馴れ馴れしく話しをしているよ。しつこい質問もしている。答えて言いのか？」と疑いの目で見られるかも知れません。私たちは決して怪しいものではございません。紹介した通り皆良い人ばかりです。安心して話しかけてください。

～レクリエーション、個性を活かして～

ケアサポートセンターようざん並榎

矢田裕司

【はじめに】

みなさんは落ち着いた環境でレクリエーションを行えていますか？業務優先になり、その日に利用されている方の一人一人の表情、様子は見えているだろうか？日々の決まった流れや業務におわれレクが疎かになってしまう事はあると思います。

ようざん並榎では業務に追われてしまい、利用者様一人一人とコミュニケーションを取る時間が少なく、職員自ら利用者様と話す機会が余りありませんでした。そのような事を改善する為に、ようざん並榎では、レクリエーションを当番制で行う事にしました。

【取り組み内容】

午前と午後で一日ずつレクの担当者を替える事にしました。これは職員全員にレクについて関わってもらいたいという気持ちから始めたものです。

当番制にする事により職員一人一人の個性を生み出し、同じ職員によるレクのマンネリ化を防ぐ事にも繋がります。今回の取り組みで、業務優先や今までのレクに対する支援方法を改善しました。

【当番制により改善された事】

- ① 職員の個性を引き出すことができた＝歌の好きな職員は童謡や歌謡曲など数多くの歌をレクに取り入れる事ができました。また言葉遊びでは、早口言葉やなぞなぞの種類を新たに増やしレパートリーに取り入れる事ができました。
- ② 利用者の方に対する個別レクが見つけれられた＝個別レクも可能になり動ける幅が増え、一人の利用者様に対して個別で行なう事ができるようになった。例えば、A様に漢字プリントをやってもらったところ、漢字問題が得意だという事が分かりました。
また、B様の家族から頂いたお花にB様と一緒に水やりをした所、とても喜んで下さいました。その日からB様にはお花の水やり当番をやって頂くことにしました。
- ③ 当番制になった事によりレク計画が立てられるようになった＝道具の準備も可能になり、紙芝居や書道を気軽に利用者様と楽しむ事ができるようになりました。職員のレクに対しての意識が高まり、内容を充実させることにも繋がった。
- ④ 利用者の方と直接的に関われる時間が増えた＝配食や訪問に出てしまい、いままで関われなかった利用者様とも一人一人と向き合う事ができるようになりました。

【課題】

①職員のレクリエーションに対する意識の差がまだまだあるような気がします。気軽に職員同士でレクリエーションの内容に対して話し合えるようにするにはどうしたら良いか。

②集団レクや個別レクを行なうにあたり、どのようにしたら利用者様を楽しませることができるか。

③趣味嗜好が分からない利用者様もいるので情報収集をふまえ、本人が出来そうな事を考えていく必要がある。

【考察】

レクリエーションについて事例を考えるに当たり、単にレクリエーションといっても色々なやり方、種類がある事を知りました。実際に当番制にした事により、一人一人の職員が業務やレクリエーションなど責任を持って行うことが出来ていると思います。レクリエーションにより、職員も責任感を持つことができ、それにより利用者の方も刺激を受け、個々の生活の充実に繋がっていかれたらと思います。

実際にやってみて、一人一人の表情をより観察して行なうことが出来ました。他の職員のレクリエーションのワザ(導入や、盛り上げ方)が勉強になりました。

【まとめ】

・以前の活動に比べて、レクリエーション活動を皆で会話を交えながら楽しみ、利用者様の脳や身体を刺激できるようになりました。レクリエーションを通して知らず知らずの内に夢中になり、職員の自信に繋がることが出来ました。

・職員の変化は利用者様にとっても刺激になると思います。職員も利用者の方々と同様にレクリエーションを共に楽しめるようにする事も大事だと思います。毎日同じことを単調に繰り返す生活ではなく日々の生活を楽しいと思えるように作り変えることが出来る場所が魅力であり自慢であると思っています。

【最後に・・・】

今回、取り上げた事例により、ようざん並榎の全職員が日々のケアについて真剣に考え、ご利用者様と試行錯誤しながら向き合っている様子の一部をお伝えしました。これからも確実に一步一步、歩みながら日常の当たり前に行き起きている事に着目し全職員で「考える」事を絶やさずに自慢できるケアを実践して行きたいと思っています。

ショートステイようざん並榎スタッフは勉強家です

ショートステイようざん並榎はピック病の介護が得意です

ショートステイようざん並榎

堀江 一彦

1. ショートステイようざん並榎スタッフは勉強家です

ショートステイようざん並榎は平成24年7月に開設しました。開設時の介護福祉士、認知症ケア専門士、ケアマネ、社会福祉士の有資格者は下記の通りです。

資格	開設時の有資格者数
介護福祉士	2名
認知症ケア専門士	1名
ケアマネ	1名
社会福祉士	1名

高橋社長が部署会議で何度も「資格にチャレンジするように」とのお話があり、資格取得に向け、ショートステイようざん並榎スタッフは一生懸命勉強しました。資格取得後、職場異動もありましたが、開設して2年間で下記の合格者を輩出しました。

資格	2年間の合格者数とその割合	2年間の全体の合格者数
介護福祉士	4名 全体の16%	25名
認知症ケア専門士	2名 全体の16%	12名
ケアマネ	1名 全体の14%	7名
社会福祉士	1名 全体の50%	2名

資格は一生ものです。ショートステイようざん並榎では、資格取得を全面的にバックアップしており、試験直前に最大3連休をあげたこともあります。また、介護福祉士の手当は17000円/月と高額です。年間約20万円も収入増になります。介護福祉士を取得したスタッフAは、生活がうるおい、車が新車に、美容室に行けるようになったと喜んでおります。

これからもショートステイようざん並榎スタッフには資格取得に励んでもらい、生活も、職業人としても豊かになってもらいたいと思います。

2. 私たちは前頭側頭葉変性症(≒ピック病)の介護が得意です。(下記ピック病と記します)

ピック病は集団生活になじみにくく、各認知症ケアのなかでも未だ手さぐりの状況で認知症の中でも介護が難しいと言われております。その占める割合は資料にもよりますが、全体の5%程度と言われております。ショートステイようざん並榎ではこの資料作成時には、ピック病の方が1日5名いることもあり、全体の25%はこの対応が難しい認知症の方です。ケアマネ、家族だけ

でなく専門医からも人的支援でこれほどよい結果を出している事業所は過去に知らないとはめられることもあり、ここで声高らかにピック病の介護が得意だと自慢をしようと思います。

★ 自慢1 常用ではありませんが、ピック病の方専用の記録様式があります。

ピック病の特徴的な症状に時刻表的な生活、被影響性の亢進(影響の受けやすい性格)状況にあわない身勝手な行動等があります。ピック病のケアは難しいですが、特徴的な症状をうまく活用すると安定した生活が送れることが多いことから、スタッフが利用者の特徴的な症状を把握できるまで、この記録様式を用いることがあります。

★ 自慢2 症状を熟知し、ケアをしています。

今回の事例で紹介するAさんは下記のピック病らしい症状がありました。

1. 状況にあわない行動:他の入居者に帰ればいいと大声を出す。
2. 清潔に無関心:入浴はまず断る。整容も散髪もなかなか出来ない。
3. 時刻表的行動:ショートの日課計画や自身の生活リズムはよく理解している。また過剰に日課計画に敏感である。
4. 被影響性の亢進:ショートの入退所が気になって仕方ない。自身の前に座るBさんの様子が気になる。
5. 食事行動の異常:大食いで人の物も食べてしまう。

Aさんには1～5のピック病らしい特徴的な症状がありました。例えば入浴拒否ですが、アルツハイマー型認知症の方へは病識欠如、着衣失行を念頭に入れお誘いします。ピック病のAさんはBさんに影響の受けやすい性格を活用(被影響性の亢進)し入浴をお誘いしています。動画をご覧ください。

★ 自慢3 症状を熟知した環境になっています。

ショートステイには1泊2日の短い期間のご利用から、施設入所待機のロング利用の方とさまざまです。Aさんは周囲の環境の変化に敏感で下記のような症状がありました。

【現状】

1. 居室プレートが小さくまた高い位置にあるので、入居者の名前が読めない。誰がどの部屋に宿泊するか気になってしかたない。
2. ショートは入退所が重なると1ユニット最大12～13名の利用者が利用している。居室数と利用者数があわないと退所予定者に帰ればいいと大きな声を出してしまう。

【対策】

1. 居室プレートに入居者の名前を記入するのをやめ、別に大きな文字で掲示した。結果、誰がどの部屋に宿泊するかA様が把握できるようになり、『あの人はどこに泊まるんだ』といった発言は減った。
2. ショートステイようざん並榎は2ユニットあり、5月よりA様ご利用のユニットをロング利

用中心のユニットにした。ロングが多い=入退所者がいないので『帰ればいいんだ』と大きな声を出す事も減った。

★ 最後に

ピック病は対応が難しく、医療保護入院の対象になる方も多くいます。1日最大5名もピック病の方がご利用になることもありました。大変な介護を要しますが、利用者ひとりひとりに真摯に向き合って下さるショートステイようざん並榎スタッフには頭が下がる思いです。まだ全国的にも手探りの状態であるピック病のケアをショートステイようざん並榎のスタッフの力を借りて、更に質の高いものにして行きたいです。

グループホーム ようさんの「いいね！」

グループホームようさん

新井 真美

【はじめに】

皆さんはcと聞いてどのように感じるでしょうか？

閉鎖的・大変・休みが取れない etc. 色々あると思います。

入所施設なので利用者様との関係はお客様というより家族に近い気がします。利用者様との距離がとても近いのです。利用者様とのホームでの生活は私たち職員にとって仕事と言うよりも生活の一部です。だからと言って馴れ馴れしく接したりはしていません。とても良い距離感を保ちながら楽しい日々を送っています。

入居者の9名だけでなく 1日定員3名の共用デイサービスを利用される方もいらっしゃいます。グループホームという家庭的な要素だけでなく、デイサービスとしてもしっかりと機能し、様々なレクを行っています。

今回は事業所自慢というグループホームようさんを知ってもらう良い機会という事でホームの日常の様子と自慢をお伝えしたいと思います。

【vようさんのいいね！その1】

～ 少数精鋭の介護力 ～

介護の実務経験 3年未満の職員が9名中5名と圧倒的に経験値が少ない事業所です。

日によっては16時以降に遅番と夜勤の2人態勢になってしまうのですが、その場合は夜勤者が厨房に入り、遅番が1人で12名を相手にレクと業務を行います。そしてデイの利用者様が帰る時間になると入居者様の帰宅願望が一斉に始まります。しかしそのような場合も私たちは慌てず落ち着いて対応します。決してイライラするようなことはありません。どのような場面でも利用者様の気持ちを尊重します。私たち職員がイライラしたり、訴えにしっかりと耳を傾けないと利用者様は落ち着くことが出来ないからです。

帰宅願望時の対応だけではありません。例えば 利用者様 A様は他のグループホームでは一泊も出来ずその日のうちに解約となりました。暴れて職員に暴力を振るったそうです。A様はグループホームようさんに入居されてからも強い帰宅願望があり、就寝前に納得して頂けても夜中や明け方には「帰る!!」と怒り出したり、窓ガラスを割ろうとしたり、他の利用者様をたたき起こして「窓を開ける!!」とトラブルになったり・・・それはもう、たくさんのエピソードが存在します。その様な時、私たち職員は 帰りたい気持ちに寄り添い、しっかりと向き合い、一生懸命耳を傾け対応します。そうする事で信頼関係が築け、今では眠れない夜でも職員と談笑して過ごす事が出来ています。眠れない夜があるのはA様だけではありません。利用者様が眠れない夜は普段言えない本当の気持ちをゆ

ゆっくりと聞く事が出来る時間であり、楽しいひと時でもあります。私達はその時間を貴重な時間と考えています。

夜勤明け、朝の申し送り前の記録をまとめる時も職員は利用者様の隣で会話を楽しみながら行います。穏やかな1日は穏やかな朝から。そのような決まりを設けている訳ではなく、自然とその様に行う事が当たり前になっています。いつでも利用者様と関わってみたいと思うからです。

この他に、主治医と話し合い内服を見直す事で車椅子でも座位保持できなかった方が今では歩けるようになりました。試したことが利用者様にとってとても良い結果につながる事は、私達職員の自信にもつながります。更なる目標達成の為に「利用者様の為にどうしたら良いか」気づきの力が磨かれます。カンファレンスの場を設けなくても意見交換は日々行われます。申し送りノートにも意見やアイデアが書かれている時があります。場合によっては主治医や福祉用具の方、そしてご家族の思いなど、色々な意見を交え、ベストな支援方法を検討して実践しています。

【グループホームようざんのいいね！その2】

～「最強の小姑力」と「嫁と婿」のイイ関係～

言わずと知れたグループホームようざんの小姑力。人数が少ないからこそ効率よく業務をこなし、空いた時間は利用者様と関わりたい。そんな思いから物の配置や収納にも細かいところにもこだわります。

時には洗濯の仕方、干し方など業務以外の生活に関係する事まで 今度は姑目線です。しかしそんな時も私たち独身職員は「傾聴」の姿勢で謙虚に受け止め、時には流し、「小姑の気持ちに寄り添う事」で介護力を高めています。

【グループホームようざんのいいね！その3】

～遊び心を持って楽しもう！～

●「SWEETS WAGON」

グループホームようざんの通貨イベント「SWEETS WAGON が行く!!」は毎月欠かさず、利用者様との手作りお菓子を各事業所へ販売に行き、利用者様が販売しております。

最初はお店として訪問先の利用者様に来て頂きましたが 販売担当の利用者様が大変で楽しむことが出来ないのです。今では利用者様が訪問先の利用者様1人1人に声をかけて販売するやり方に変更しています。そうする事で利用者様同士の会話が生まれ、ゆっくりと楽しむ事が出来ています。

SWEETS WAGON は利用者様だけでなく、職員も他事業所へ出向く事で刺激を受ける事が出来ます。事業所内の飾りつけや雰囲気・利用者様と職員の関係など、事業所ごとに様々です。ただ行くだけではなく訪問先で何かを得る良い機会にしたいと思っています。

●「行動力」と「企画力」

「天気が良いから外でお茶が良いんじゃない?」「今、高崎市美術館でやっているイベントに行きた

いんですけど」「工場見学にいきたい！」「焼とうもろこし、明日しようか？」利用者様に楽しんでもらえるように意見がポンポン出てきます。利用者様のご要望になるべく早くお応えできるように職員はすぐ行動します。面倒くさいなどという言葉は聞かれません。思いつきのアイデアで並榎エリアの事業所に グリラ通貨レクも開催します。利用者様だけではなく私たち職員も楽しいが一番！ アクシデントがあっても バタバタしても 段取りが悪くても そこを楽しむ。心にゆとりと遊び心を持って利用者様と楽しんでいます。

また「食」でも楽しんでもらえるように 職員出身地の郷土料理をふるまう「食フェス」を行っています。第1回目として6月に「福島フェア」を行い、喜多方ラーメンやこづゆを味わって頂きました。材料を現地で購入するというこだわりです。今後の「北海道フェア」も現地で材料を仕入れてくる予定です。地元でないと手に入らないマイナーな物や土産話など、食事以外にも色々楽しんでもらっています。「利用者様の笑顔が沢山見られるように」アイデアは尽きる事はありません。

【 最後に 】

まだまだ未熟な私たちです。「本当にこれで良いのか？」悩みは尽きません。混乱期に入っている入居者様が多い中、これからが本当に専門職として質が問われてくる時期になると感じています。入所施設の場合、私たちの対応で利用者様の生活が決まってしまう。「世界で一番、大きな愛を利用者様に届けられる施設でありたい」そう思いながら これからも大事な家族の為に自己研鑽に励み、より良い介護が出来るようにしていきたいと思えます。これからも利用者様の「笑顔の素」になれる職員で居られますように。

あなたひとりだけのために

スーパーデイようざん双葉

榎田千恵子

「あなたひとりだけのために」私達が双葉開設以来力を注いでいるテーマである、利用者様おひとりおひとりの思いに添った個別レク、その取組のほんの一部をここに発表いたします。それでは、スーパーデイようざん双葉職員を紹介いたします。

- ・ガッツだぜ、気は優しく力持ち。頼りにしてますよ！内山主任。
- ・どんな時も、気配り心配り忘れません。梨本さん。
- ・博学多識は大橋さん。
- ・料理の腕前は天下一品です。猪俣さん。
- ・アイディアマン、ムードメーカー、ちょっぴり小粒な西田さん。
- ・常にマイペースな南雲さん。
- ・音楽鳴ったら踊り出す、ちょっと変な榎田です。
- ・そんな、私達を束ねる男気あふれる菅沼所長。

以上 8 名の職員が自慢とする、企画力、そしてすぐ行動に移す実行力。

利用者様との会話から何気ない言葉を聞き逃さず、すぐ始動です。

「そうですね。」や「いいですね。」ではありません。「やります。」なのです。

もちろんできることには限度がありますが、限りなく希望に添いたい。

その先にある利用者様のプライスレスな笑顔のために努力は惜しみません。

双葉開設以来続けてきた、あなたひとりだけの特別・・・。

まずは A 様 89 歳

国鉄に勤務し駅長をしていた。家ではごろごろ、デイではうとうととするばかり。

「A さん、倉賀野駅の駅長時代も居眠りしていたんですか？」

「そんなわけないだろう、ずいぶん変わっただろうな。」

じゃあ、見に行きましょうか、と出かけました。

金網越しに懐かしそうな目で駅舎を見る A 様。「懐かしいなあ。」

そして名前を呼びカメラを向けると、キリッと敬礼をして下さり、その姿は凛々しく

乗客の安全と、正確な運行を守る駅長でした。

B 様 79 歳

生まれが愛知県で新鮮な魚介を食べて育った B 様。

「角上の魚は美味しいよ。新鮮なもの。前は娘が良く連れて行ってくれたんだけどね。たらこやい

くらが食べたいねえ。」とスーパーのチラシを見ながらポツリ。

B様はお金の管理ができる。買い物に行ける！と実行。

車いすに乗り、レジかごを抱え「お兄さんあっち。次はこっち。さんまがおいしそう。ちょっと止まって。」とテキパキと職員を動かし、その夜は大好物のいくらとたらこをおかずに夕食を召し上がったそうです。

C様 90歳

とても家族思いで優しいC様ですが、普段は無口です。

幼くして奉公に行き、軍隊でも我慢を強いられてきたせいかわ遠慮勝ちです。

誕生日に近いこともあり、お祝いさせて欲しいとお聞きしてみると、照れくさそうに「刺身。」と一言。

夕食がC様お一人のとき、お祝いをしました。

近所のスーパーなのですが値段の割に豪華です。

今は楽しみの晩酌をしていないというC様。お酒が付いたらもっと良かったですね。

D様 76歳

ジャズや映画音楽が好きで、ダンディズム漂うD様

コーヒーも好きで以前通っていた喫茶店に出かけたことがありました。

でも今回はジャズ喫茶です。倉賀野にあるCLART(蔵人)

事前に連絡をし、美味しいコーヒーとジャズ、スクリーンに映る映画を楽しみ、ゆったりとした大人の時間を過ごしてきました。

「良かったよ〜。」普段は歩行器を使いますが、段差があるため、この日のために職員が脇を抱え歩く練習をした甲斐がありました。

E様 90歳

思い出の北小学校。「勉強のことで父や母に叱られても校庭にある榎の下に立つと不思議と忘れることができるの。大きな木よ、榎っていうのよ。会いたいわ。」と良く口にされていました。

3月、校庭の桜がきれいです。ブロック越しでなく、校庭からあの榎を見ることはできないだろうか。

早速校長先生に電話をし許可を申し出ると、「いつでもいいですよ。」というお返事をいただきました。

そして間もなく、なんと校長先生がわざわざ北小学校の昔の写真を持って双葉に来て下さったのです。

写真を見て嬉しそうなE様。何度も何度も繰り返し見えています。

鶯が鳴く暖かな日、校庭には子供たちが元気に遊んでいます。

校舎には『祝北小学校開校112周年』と横断幕が。

「懐かしいわ、私がいた頃よりもっと大きくなってわ。」「そこに二宮金次郎があったのよ。」

「運動会もここでしたのよ。」

その表情は78年前に戻った少女でした。

E様は、堂々と立つこの榎に見守られていたのですね。

以上、5例を紹介させていただきました、まだまだたくさんのごことを実行して来ました。

思いをうまく伝えられない利用者様には、生活歴から好きな食べ物や、思い出の場所などに出かけています。

忘れてもいいのです。私たちの自己満足かも知れません。

利用者様の笑顔が見られ、もちろんご家族からも感謝され、自分が家族だったら、もし自分が双葉を利用していたら、「あなたひとりだけのために」職員が全身体制で実行してくれる。

嬉しいですね。

職員の入れ替わりがほとんどないからでしょうか。質の高いケアが統一できています。

その強みが利用者様との信頼関係に繋がっているのだなと思います。

この仕事って、いくつになっても「お姉さん」と呼ばれるからこたえられません。

「お姉さん。」誰かが呼ぶと、女性職員全員が振り向くスーパーデイようざん双葉でした。

ご清聴ありがとうございました。

「ここで寝るんだあ～」

～いつまでも二人で、サテライトを利用しながら自宅で過ごす～

ケアサポートセンターようざん中居
関 ひかり

はじめに

長年住み慣れた家、愛する家族と過ごした家で暮らしたいという思いは誰しもが持つものでしょう。年を重ねて思うように体が動かなくなってきたとしても「自分のことは自分でできる」「子供に心配をかけたくない」。それと同時に離れて暮らす年老いた親のことを心配する家族の思いもそこにはあります。「いつまでも元気で」「安全に、安心して暮らして欲しい」。

本体事業所であるケアサポートセンターようざん双葉とともに地域密着型介護に携わらせていただく中、いつまでも住み慣れた家で夫婦一緒に暮らすを実現したある利用者の事例を発表します。

名前:	Aさん 男性	Bさん 女性
年齢:	88歳	85歳
要介護度:	3	3
日常生活自立度:	Ⅱb	M
既往歴:	認知症 前立腺肥大 急性胃潰瘍	認知症 10年前位にうつ病
家族構成:	娘 2人(長女 八王子 次女 東京)	
趣味:	釣り ドライブ	散歩

生活歴

Aさん：新潟県生まれ。幼少時に父親と死別、親族をたより高崎へ移住。その後教師となり見合
いにて奥様と結婚。結婚後も養護学校を中心に教鞭をとり、定年まで勤め上げる。

定年後は、町内会長2年、地区の衛生係2年と地域への関わりも深かった。

Bさん：月夜野に生まれ、成人後は教師の道へ進み、結婚し高崎へ。結婚後も教師を続け仕事
一筋であった。

Aさん、Bさん共に21年ころより認知症の症状が見られるようになり、現在は重度の認知症の妻
を同じく認知症の夫が介護している状態である。

小規模多機能、サテライトの具体的な特徴

- ① 必要に応じたサービスの組み合わせが可能である。
- ② サービスにより、事業所を変更する必要が無いためスタッフとの信頼関係を深める事ができる。
- ③ 緊急時には、ケアサポートセンターようざん双葉と連携し宿泊対応も可能である。
- ④ 双葉でのイベントに参加をする事で、地域とのかかわりをより広く持つ事ができる。

課題

ようざん利用前は、他施設にてデイサービスと週末のショートステイを利用していたが、認知症の進行にともないさまざまなリスクが大きくなり夫婦二人での生活が困難。

ようざん利用前のリスクの発現

- ① Bさんが自転車で、大好きなスイカを買いに出かけたが帰ってこないため Aさんが探しに行くとき自転車が倒れておりスイカも割れていた。
- ② Aさんから娘へ「家に2人組の男たちがきて通帳やらお金やら全部もっていった」との訴え、家中の引き出しから衣類をだし散乱していた。
- ③ 時には夫婦二人でかけるも帰り道がわからなくなり、保護される。
- ④ 自宅では二人でおり、地域との交流もないため緊急時の対応に不安がある。

家族は自宅での生活維持困難と考え施設への入所を検討するが、Aさんは自宅で妻と共に生活を継続していきたいとの希望を持たれていました。

「俺が家で(妻を)みながらやるから大丈夫だ」

家人はAさんの強いお気持ちに説得を諦めようざんへ相談がありました。

取り組み

相談があったとき、この状態のご夫婦二人での在宅生活の継続はかなり困難に思えましたが、本人の思いに添えるケアについて双葉、中居の職員合同でカンファレンスを複数回もち検討を重ねました。

本人の思い	家人の思い
<ul style="list-style-type: none">・住み慣れた自宅で過ごしたい・妻と二人でいたい(妻の)面倒はおれがみる・娘たちに心配かけたくない	<ul style="list-style-type: none">・安全、安心して暮らしてほしい・地域との交流を持てたらうれしい・認知症の進行をおくらせるために 今までの生活習慣の継続が出来たらうれしい

利用日

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
通い	訪問	通い	訪問	通い	通い	訪問

Aさん、Bさん夫妻の場合は、小規模多機能型施設の利点でもある通所、訪問を併用するプランを立案、それにより夜間は毎日自宅で休むことが可能となりました。万が一の緊急時には宿泊対応も可能とし家人の不安を取り除くことも考慮、あわせていくつかのリスク回避のアイデアも実現しました。

訪問の日もようざんへ行くつもりで、冬でもスタッフが行く前に外で待っている。

そうだ！利用日を表にしてリビングにはりだそう。

夜中によくようざんへ迎えはまだですか？と電話をしてくる。

そうだ！通いか訪問かがわかるように電話のところにメッセージボードを置くようにしよう。

あれ、前の訪問の時にはなにか問題があったかしら？

そうだ！訪問ノートを作成して情報の共有をはかろう。

毎日自宅へ帰る事ができるため長年の生活習慣を変えることなく、今でもAさんご自身がコンビニまで二人分の朝食を買いに行きます。毎朝必ずスタッフが訪問するので、もしAさんがいないときにはコンビニまでの道のりを確認しながら車でおいかけ買い物のお手伝いをします。

外出前には、自身でセコムのセットと鍵の施錠をします。

時折、買い物でビールを購入、自宅で晩酌もされています。

二人の時間を作るために、職員と共に買い物に出かけた時にはAさんが奥様と洋服を選び、気軽に外出できる環境づくりを心がけています。

結果

通所と訪問を利用し住み慣れた家での生活を継続、広く地域との交流を通じてAさんには自信がつき、スタッフとの会話の中で少しずつご自身の昔話を下さるようになりました。教師時代に教え子たちと行った「浦島太郎」の劇についての思い出を楽しそうに話すAさんを見て、「そうだ！双葉と中居で合同で劇をしよう」、そしてAさんに総監督をしていただこうと思い立ちました。その人らしさを、より輝かせるステージを用意できたことをとてもうれしく思っています。

Bさんも初めは全くの無反応でしたが、通所利用を開始してから歌を歌うようになりました。昔、子供たちと歌っていたのか、唱歌や童謡などを一緒に歌ってくださいます。

また、授業で教えていたのか上毛カルタの上の句を読むと下の句を返してくれるようになりました。

在宅生活の継続は困難と思えた今回の事例ですが、スタッフの関き、働きによってBさんに大きな自信を持ってもらうことができました。

終わりに

運営推進会議に参加し

「ここは皆さんが親切で、浦島太郎の劇もとてもよかったです。楽しく過ごしています。」

と話して下さった A さん。

同会議に参加していただいた長寿社会課の方より

「レクリエーションで劇をやっているのを聞いて驚きました。利用者さんに監督をしてもらうなど、利用者の得意なことを活かす場を作っているのがとても良い事だと思います。」という言葉も頂きました。地域の皆様のご理解を頂き、このような言葉を頂けるケアを行なえた事、それが私たちの大きな自信と自慢です。

B さんの口癖である「ここで寝るんだあ」

それを聞いて笑っている A さん。

はい、大好きなお家でゆっくり寝ましょうね。

本日は、御清聴ありがとうございました。

「地域交流」と「異業種との連携」

ケアサポートセンターようざん双葉

小板橋貴之

今回ケアサポートセンターようざん双葉より、ご紹介させて頂く自慢は「地域交流」と「異業種との連携」です。

【地域交流】

毎月「ふれあいサロン」といい公民館で地域交流の場があります。そこでは、保健師さんによる健康チェックや健康指導の他、様々な催し物が企画され、地域との大切な交流の場となっています。

毎月お声かけ頂き利用者様と参加し、地域の方々と楽しい時間を過ごさせて頂いています。

今回、いつもお世話になっている地域に向けた活動を行いたいという思いから取り組んだ内容を紹介させていただきます。

1、地域のごみ拾い。

地域貢献の一貫の他、近隣の方々との距離を縮めたいという思いから、継続して行っています。継続して行う事で、すぐに住民の反応に変化が見られました。

「おはようございます」という挨拶に最初は「おはようございます」というお返事でしたが、徐々に「ご苦労様です」と一言頂けるようになり、最近では「いつもありがとね」と声を掛けて頂けるようになりました。

また、月に1度、「清掃日」として勤務表に組み込み、広範囲でのゴミ拾いも継続して実施しています。

6月1日に行われた双葉町の清掃活動においては、民生委員さんから「ぜひようざんさんも参加してくださいよ」との要望を受け、喜んで参加させて頂きました。

清掃活動後には、バーベキューにも参加させて頂きました。

こうした地域活動を継続して行い地域との関わりをより密接にしていきたいと思います。

2、ふれあいサロンでの説明会

民生委員さんへ「何か私たち発信で地域に向けた取り組みをしてみたい」と話したところ「双葉町は高齢化が進み独居の方も増えている」と、将来に対し不安を抱えている方が多いので、介護についてプロの方に説明会をしていただきたいと依頼を受けました。

民生委員さんと打ち合わせを重ね、認知症になったら即施設ではなく、地域ぐるみで認知症の方を支え、もし将来認知症になったとしても双葉町での生活を安心して継続できる町つくりのきっかけとして行いたいという思いに賛同いただき、「認知症と介護」をテーマに説明会を行う事となりました。

日時は5月20日 時間は10時半～1時間程度の時間を頂きました。

当日は40名ほどの地域の方々にご参加いただきました。

認知症予防の説明では、実際に頭や身体を使い「難しいな～」「これでいいのかな」「違うよ。こうだよ！」などと参加者さん同士で声を掛けあいながら、取り組む様子が見られました。

6月に行った運営推進会議にて、区長さん・民生委員さんより「高齢化が進む双葉町において、先日の説明会は大変貴重な内容でした。気にはなっているけど、なかなか説明を聞く機会がない認知症の事。日常生活の中で無理なくできる認知症予防について大変分かりやすく説明頂きとてもよかったです。また、福祉用具を用意して頂き、見るだけでなく実際に触れることができ、今回参加できなかった人たちにも説明することが出来ます。今後も継続してお願いします」とお言葉を頂きました。

今回の取り組みは、認知症になっても双葉町での生活を安心して継続できる。

認知症の方を地域ぐるみでみんなで支えよう。「そんな町づくりをしたい」という思いがきっかけでした。

地域密着型サービスの地域での役割を改めて見つめ直したとき、介護や認知症に関する相談の拠点であるべきと考え、気軽に相談できる関係作りのためにも、地域に向けた活動を継続し、より身近な存在になれるようにしていきたいと考えています。

【異業種との連携】

今回、新たなレクリエーションの取り組みとして、飯塚町にある結婚式場「マリエール」と連携を図った取り組みについてご紹介します。

きっかけは、私がマリエールと同系列の日展ラサより依頼を受け、定期的に介護保険の説明会を行ってきました。

担当の方がわざわざ事業所へお見えになり、「何かこちらからお役にたてることはないでしょうか」とレクリエーションの案をお持ち頂きました。

お持ち頂いた案は、結婚式場のプロのメイクさんが事業所に見えてお化粧をするというものでした。

よくよく話を聞くと、結婚式場に使わなくなった衣装があるとの事。

そこで、こちらから利用者様をお連れして、衣装を着てもらって写真を撮っていただく事は出来ないかと提案。

何度か打ち合わせを重ね、こちらの要望を受けて頂くことが出来ました。

今回お声かけた利用者様はお誕生日が近いA様。奥様にも趣旨を説明し、「一度ウエディングドレスを着てみたかった」と大変喜んで頂き、ご夫婦で写真撮影を行う事になりました。

向かえた当日です。

やや照れくさそうなA様。ロビーで待っていると、控室へ案内されます。

中へ入ると、撮影用の衣装が用意されていました。

さっそくプロのメイクさんとスタイリストさんによる準備が始まります。

支度が終わるといよいよ撮影です。

今回、撮影の場所として教会をお貸し頂き、プロのカメラマンに写真を撮って頂きました。

マリエールより写真が出来上がった連絡を受け、ご家族へお渡しすると大変喜んで頂きました。

写真は、2週間ほどで出来上がり費用のご負担はありません。

今回はご夫婦ともに歩行可能な方でしたが、車いすの方も専用の衣装を用意できるとの事です。

式場についてから、帰るまでにかかった時間は45分程度でした。

予め対象者の身長、靴のサイズ、希望の衣装を伝えておけば事前に準備しておいて頂き、当日は、移動や更衣の介助を職員で対応すれば、あとはマリエールのスタッフが対応してくれます。

お誕生日やご夫婦の記念日等に是非この取り組みを活かしていただければと思います。

利用者様から学ぶこと

訪問介護 ぽから

佐藤 靖典

訪問介護、と聴いて皆さんは何の仕事をしていると思いますか？

施設介護はすぐに浮かぶかも知れませんがどうですか？

簡単に分けると、身体介護・生活支援・通院乗降などになります。

最初にサービス提供責任者の仕事内容の説明をします。

ケアマネさんからサービス希望の話が来ますと、地区や介護度・駐車場の有無・大まかなサービス内容・時間帯・希望日・自立できているかどうか・等を確認し調整して貰えるように交渉していく事がサービス提供責任者の仕事です。

一番大変なのは、スケジュールの調整です、二週間分のスケジュールをバランス良く作成しますが、ヘルパーさんの都合で急に行けませんと連絡が入った時や、急な受診や入院等でスケジュールの変更をしているので、ミス無くす為に毎日明日のスケジュールのチェックをしてから帰ります。

月の頭の実績を各居宅事業所に届けに行きます、ありがたいことにさまざまな事業所様から仕事を頂いていますので、普段忙しくて坦会の時でないとお会えないケアマネさんに会えて、時には情報交換ができます。

それでは、これから実際にしているヘルパーさんの一日の仕事とエピソードを見ていきましょう。

最初の訪問先は生活2の45分のお宅です、訪問すると大体ベッドに寝ています、「おはようございます、ぽからです」と声掛けし入室しますと、快く受け入れてくださいますが、「今日はデイサービスに行きますから着替えましょう」と言いますと、急に不機嫌になられて「いけないよ」といいだしてしまいます。この方は尿失禁が有るので何時も全更衣になります、ヘルパーさんは手でシーツが濡れているかを確認しながら、声掛けして着替えをし、シーツや脱衣を急いで洗濯に出します、あまり早く声掛けして着替えて準備をしても、洗濯機が外にあるので一度外に出て洗濯機を回している間にいつの間にかパジャマに着替え、居間でテレビを見ていたはずなのに、布団の中に入っていて、「今日はいかないよ」と言われてしまう時も有ります。

短い時間内に洗濯と掃除・トイレ内にリハパンのセット全更衣・ベットメイキング・飲み水の交換等デイサービスが迎に来る前におかないといけないので大変です、

2件目の訪問先は身体1生活3の100分です、

お昼からサービスに入りますので昼食の用意をし、離床介助をし、今度は車椅子に移乗してから、食事となります、食事をしている間に流し回りの掃除をし、

その後、義歯の洗浄をし、着床してから陰洗・清拭・おむつ交換・全更衣・足浴・軟膏の塗布・等を行います、それから、脱衣の洗濯をするので、時間が足りなくなります、手順良くこなしていけないと間に合いませんが、利用者様のペースに合わせて行いますので、毎回予定通りにいくとは限りませんが、

時々「これもお願いと頼まれます」、その時は笑顔で「はい」、と素直に受けて即座に対応しますが、次の利用者様に遅れないように気を付けていますが、内心間に合うかなと冷や冷やします、時には帰る間際に頼まれますので、自分の中でもしかして嫌われていて、わざと長引かせているのかと思うこともあります。どうしたら時間内に仕事が終わるのか試案していると、その方から「私は時間内には終わらないよ」と言われてしまい、どの人が入っても時間オーバーしているのを聞いて、自分は嫌われていて用を言いつけているのかという、不安感は無くなりました。

3件目の訪問先は、予防60分のお宅です

この方は主に一階の居住スペースのみの掃除となります、居間・寝室・トイレ・風呂・等の掃除をしますが、いつもお話しをしながらしているので、日々色々な事を利用者様に教わっています。

お風呂は、どの利用者様も掃除をするのが大変なようです、この日は、特にお風呂とトイレの掃除をして欲しいと話されていて、お風呂のタイルがカビで大分黒ずんでいたもので、浴室用のカビハイターを使い、強烈なおいにも負けずたわしでこすっていると、大分黒ずみが取れ白くなったお風呂を見て大変喜んで下さり「一日に何回もお風呂に入るので、安心して毎日きれいなお風呂に入れるわ」と言われ、他の掃除場所もきれいになっていると喜ばれるのを見ていて、自分はこの仕事を選んで本当に良かったと思いました。

4件目の訪問先は、生活3の70分のお宅です、

最初のうちは掃除にこだわりがあるのか必ず掃除をするたびに後をつけてきていました、炬燵の回りに置いてある座布団の場所も決まっていた、違う位置に置いて怒られ、花瓶等を机の上に置いて在るものをどかして拭いてから元に戻しますが、「5ミリ元の位置からずれているので直して」と指摘されます、掃除を早く終わらせて次の事をしようとするれば、「何か手抜きをしているだろう」と言われ、遅ければ「手がノロいんだから」と言われてしまう始末です、

時々自分自身それではどうしたらよいのかと、プツンと切れそうになりますが、そこは我慢してサービスに入っていましたが、一年ぐらいたったある日仕事に慣れたせいもありますが、その利用者様から、「色々な人が来たけど、あんたが手早く掃除をしてくれるので良い」と褒められるようにまできました。

今では入るとすぐに愚痴をこぼされそれを聞いてから掃除に入るようになりました。サービスが終わりますと、「また来ておくれ〜」と言われ、帰りますがその時はとてもうれしく頑張ったかいがあるなと思います、私の名前は掃除をしてくれるおばさんです。

次は本日最後の訪問先で生活3の70分のお宅です。

このお宅は夕食を主に作ります、他にもする事が多く、冷蔵庫の中は食材がいっぱい入っていて夕方は夕食と朝食の分、朝は朝食と昼食の分を作りますが、

たまに料理が思いつかなくなり二品になると「今日は二品だけなの」と言われてしまいます。また、案外一人分は量の加減が難しく、つい何時も家族に作っている分量で考えてしまいがちです。

食事の用意ができると、ベッドから車椅子に移乗し食堂で食べている間に、洗濯物を干し・ベッド回りの片づけや居室の掃除機掛けなどをしています、食べ終われば片づけキッチン回りの掃除をすると、もう時間になってしまいます。

これで、今日の訪問は終了です

訪問の仕事を選んだ人の多くが、利用者様に対して一対一でコミュニケーションが取れる事を一番大事に思い訪問しています。現場ではいつも一人ですから、調理などで普段作ったことの無いものを、食べたいと言われると少し困ることも有ります。

ですから、ぽからでは定期的に調理の実習をして作り方の勉強会を開いています、また、訪問の仕事は日々勉強です、テレビの話題についても話ができるように、いつも心掛けています。

最初は道が覚えられなくて、迷子になり時間通りに訪問できなかったり、食材の関係で昨日と同じものを作ってしまったたり、善意と誤ってした事が、利用者様にとってはまだまだで、叱られてしまう事もありました、でも今では利用者から来客の方に、「お宅はいつもきれいにしていますね」と言われ、「ヘルパーさんに来てもらっているから」と話されていた時などはとても嬉しく思い、利用者様の色々工夫された生活の知恵を見習いながら、生活に密着したお手伝いができる事、頑張り続ければ、どんな利用者様も心を開いて下さると思い訪問時に笑顔でいてもらえるようにいつも明るく振舞っています、ぽからでは職員一同いつも明るく振舞っているので、来所された誰からも「明るく楽しい職場だね」と言われるようになりました。